

目次

2025年～2026年秋 新刊のご案内	2
これから刊行する書籍のご案内	21
テキストのご案内	28
雑誌「日本文学」発売中	36
製作協力した電子学術雑誌	36
ウェブマガジン 未草のご案内	36
『認知言語学論考』No.20 原稿募集	36

未 発

2026 年 秋冬

【ひつじ書房新刊・近刊案内】

未発 2026 秋冬

電子版（PDF）はこちら→



房主より

下地理則先生が、note に「政治家の「答弁拒否」の言語学：計量政治言語学のアプローチ」を7月に書かれて、評判になっていました。国会会議録というコーパスを使つての論究で、国会での議論がなりたっていないということが指摘されています。データに基づいた指摘自体が言語研究として有益ですが、そもそも、国会は国政について議論をするための場所であるわけです。国会議員は議論のプロとしてどうなのか。対立する陣営からの議論には答えないということは考えが違っている人に対してことばで対応するということができないということです。とともに、問いかける側も答えられない問いをするということなら、問いかける方にも責任があるということもあります。朱喜哲氏が『パラパラな世界で共に生きる』の中で、アメリカの哲学者ローティの「会話を継続させる」ということばを紹介しています。とにかく、殺し合わずに話し続けていくことが大事。

国語教育ではこれまでもずっと「話し合い」ということが重要視されてきました。よい話し合いをできるようにすることが国語教育の目的の一つです。児童生徒によい話し合いをするように教えるながら、国会の現状を見ると議員を含めた大人たちはできておらず、国語教育の教えるを学べていないということになるのでしょうか。よい話し合いをすることができていないのなら、よい話し合いをするための条件や実行できるようにするための習熟のプロセスなど、国語教育としても研究し、充実させる必要があるのではないのでしょうか。これは、言語学、応用言語学の課題でもあると思います。現在、学校には外国人の児童が入っていきっています。バックボーンがことなる人間がいる場所で、話し合いを進めていくということの意義は大きくなっていると思います。違いを認め合うだけでなく、共通する部分をどう探していくのかも大事だと感じます。



X (旧 Twitter) アカウントと YouTube チャンネルはこちら。
ぜひフォロー & チャンネル登録をお願いします！



X

@hituzi_gusa

https://x.com/hituzi_gusa/



YouTube

straysheep 2020

<https://www.youtube.com/@straysheep-h70s/>



ひつじ書房

〒112-0011

東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F

<https://www.hituzi.co.jp/>

e-mail toiawase@hituzi.co.jp

tel 03-5319-4916 fax 03-5319-4917



💡 印のついているものは、2026 年刊行の新刊です。

ひつじ研究叢書(言語編)

第 208 巻 近・現代日本語謙譲表現の研究

伊藤博美著 A5 判・328 頁・978-4-8234-1268-4 定価 7,200 円＋税 発行 2025. 2

江戸後期から現代にかけて成立した謙譲語について、個々の成立事情とその特徴、背景にある論理とはどのようなものか。各形式はどう変化し、今後どのような方向を辿るのか。本書では補語(敬意対象)への働きかけと被影響の内実について丁寧に分析・検討しつつ、参加者の関係の多様性もふまえた体系的記述を試みる。統計解析の手法も用いて近代以降の謙譲語の成立とその展開に焦点を当てて論じた、初の研究書。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第 209 巻 アククーチョ・ケチュア語の移動表現

実験的手法を用いた類型論的研究

諸隈夕子著 A5 判・316 頁・978-4-8234-1269-1 定価 8,800 円＋税 発行 2025. 2

「家に入る」「階段を上る」といった移動表現の類型論は、概念の普遍性と表現の多様性から古くより注目を集めている。アンデス地域の歴史的リング・フランカの 1 つであるケチュア語では、移動表現にどのような特徴が見られるのだろうか。本書ではアククーチョ県を中心に使用されるケチュア語に注目し、実験的手法で得られたデータを元に、この言語の移動表現の類型論的特徴を、世界で初めて総覧的・体系的に記述する。〈日本学術振興会助成刊行物〉〈第五回東京大学而立賞受賞〉



第 210 巻 人はどのようにことばを使用するのか

意味・語用論からその応用まで

須賀あゆみ・山本尚子・長辻幸・盛田有貴編

A5 判・436 頁・978-4-8234-1280-6 定価 8,000 円＋税 発行 2025. 3

本書は、人が日常的に使用することばを対象とし、ことばを用いて営まれるコミュニケーションを視野に入れた言語研究の論文集である。各論者が、ことばの用法、構文、発話の意味、レトリック、談話、言語教育、社会との関わりなど、様々な素材や道具を使い、ことばが織りなす世界の規則性や秩序性に迫る。吉村あき子教授退職記念論文集を兼ねる。執筆者: LEE Kiri、荒木琴乃、松永香奈、北嶋穏香、中口実優、今野弘章、平尾恵美、森木乃美、松山加奈子、山本尚子、笹本涼子、白阿栄、盛田有貴、徳田真史、東元千尋、長辻幸、周琳、高岡朱美、松永光代、村田和代、後藤リサ、須賀あゆみ



第 211 巻 日本語表記の多様性

岩崎拓也編 A5 判・260 頁・978-4-8234-1281-3 定価 6,200 円＋税 発行 2025. 5

約 70 年ぶりに公用文作成の手引が新しくなったことを受け、現代日本語の多様な表記の実態に迫る論文集。句読点、括弧、LINE のスタンプ、仮名づかい、改行等、幅広いテーマを網羅し、データに基づいた分析で表記研究の新たな地平を切り拓く。日本語学の研究者のみならず、教育工学、自然言語処理の研究者など、幅広い読者層必携の一冊! 執筆者: 井伊菜穂子、石黒圭、市江愛、岩崎拓也、落合哉人、柏野和佳子、胡佳芮、砂川有里子、田中啓行、本多由美子、三谷彩華、宮城信、横野光



第 212 巻 方言オノマトペの形態と意味

川崎めぐみ著 A5 判・392 頁・978-4-8234-1293-6 定価 8,000 円＋税 発行 2025. 3

オノマトペは言語研究者の関心を集めてきたテーマの 1 つである。方言オノマトペは共通語にない多様な形態と独特の意味を持つが、まとまった研究は少なかった。本書は方言オノマトペの語形成と意味に深く踏み込む初の研究書である。方言オノマトペ研究の調査・分析手法を切り開いてきた著者の研究成果を集約した本書は、散在する方言オノマトペ研究の成果をまとめ、共通語のオノマトペ研究に対して新たな視点を提供する。



第213巻 日琉諸語における情報構造と文法現象

竹内史郎・下地理則・小西いずみ編

A5判・360頁・978-4-8234-1294-3 定価 7,000 円＋税 発行 2026.5 

本書は、単一語族のうちに豊かで多様性に満ちた文法現象が見出されることをふまえて、これまで個別に行われてきた感のある古典日本語研究、琉球諸語研究、本土方言研究を統合し、それらの融合を促す試みの一つである。特に情報構造に関わるものを中心に、日本語史、方言類型論、フィールド記述、実験言語学といったアプローチ別に意欲的な10の論考を取る。執筆者：小川雅貴、衣畑智秀、小西いずみ、下地理則、竹内史郎、中川奈津子、林由華、廣澤尚之、藤原慧悟、松岡葵、松丸真大、横山晶子



第214巻 現代日本語の数量を表す形容詞の研究

包雅梅著 A5判・184頁・978-4-8234-1298-1 定価 6,400 円＋税 発行 2025.5

「多い／少ない」は他の形容詞と異なる統語的振る舞いを示し、装定と述定用法に使用制限が見られる。本書では、「多い／少ない」の使用制限とその関連現象を、形容詞の段階性とその意味及び文中での機能との相関に注目し、統一的な説明を試みる。中国語や英語を扱った先行研究も援用しつつ、英語の形容詞との相違も議論しながら、数量を表すとはどのようなことかという問いを追究し、日本語の形容詞研究に新たな視点を提供する。



第215巻 語彙と文章の計量的日本語研究

鯨井綾希著 A5判・368頁・978-4-8234-1300-1 定価 6,800 円＋税 発行 2025.9

自然言語処理やデータサイエンスが興隆する中で、日本語研究もその分析手法を再考する時期に差し掛かっている。これまでの日本語学が積み上げてきた数理的・定量的な研究や、世界的なコーパス言語学の潮流を鑑みたときに、計量的な日本語研究にはどのような未来がありえるだろうか。本書は、探索的な計量分析を通して語彙と文章という二つの視点が交錯する言語学の世界を描き出し、新たな計量日本語学の創設に向けた可能性を示す。〈語彙研究会 2026 年度学術賞(田島毓堂賞)受賞〉



第216巻 「打ちことば」の研究

モバイルメディアコミュニケーションから再考する日本語

落合哉人著 A5判・360頁・978-4-8234-1303-2 定価 7,800 円＋税 発行 2025.7

近年、日本語研究では、インターネットを介して伝えられることばを話しことばでも書きことばでもない「打ちことば」と呼ぶ動きがある。しかし、いまだ体系的な研究は乏しく、特性の違う複数のメディアをどのように比較できるかという点からして内実は曖昧な部分が多い。本書は「打ちことば」の典型である 2000 年代の携帯メールと 2010 年代の LINE の比較を端緒として、言語使用の本格的な実態把握を行う初の試みである。〈第 4 回国立国語研究所宮地裕日本語研究基金学術奨励賞受賞〉



第217巻 現代日本語の程度表現の研究

川端元子著 A5判・336頁・978-4-8234-1332-2 定価 7,600 円＋税 発行 2026.2 

現代日本語の程度表現には、副詞を含むさまざまな言語形式がある。本書は、従来の研究をふまえて、程度副詞をはじめとする比較構文を含む多様な程度表現形式の特性を探る。程度評価のあり方がその表現が設定する程度スケールの異なりに起因することに注目し、程度スケール上に設定される基準や発話の前提をもとに、程度表現がどのような意味の違いを持つのかを整理する。そして、程度表現が多様化する要因を解き明かす。



第218巻 形容詞の意味 日本語とドイツ語の対照研究から

室井禎之著 A5判・328頁・978-4-8234-1333-9 定価 8,400 円＋税 発行 2026.4 

形容詞という品詞が持つ意味の側面に、類型論を含む広範な先行研究を踏まえつつ、精緻な分析で切り込んだ著作。日本語とドイツ語を対象としながらも、随所で類型論的含意を導き出す。ドイツ語になじみのない読者のためにグロスも付ける。性質の表現に特化した日本語の形容詞、多様な名詞修飾を展開するドイツ語の形容詞を対照させることによって、形容詞の意味分類に新たな提案も行う。とくに次元、色彩、感情形容詞を詳細に議論している。



第219巻 荷田春満と日本語音調史の研究

中村明裕著 A5判・464頁・978-4-8234-1343-8 定価9,800円＋税 発行2026.2💡

本書は、国学の始祖とされる荷田春満とその門人が書き残した語彙集を分析し、それに反映された当時の日本語の音調を明らかにする。あわせて日本語学史上の春満の位置づけを考察し、その時代に先んじた言語研究に光を当てる。生没年も生育地も明らかな春満自身による記録は、京都アクセント史上の貴重なマイルストーンとなりうる。さらに、春満による記述は東部方言のアクセントにまで及び、日本語アクセント史全体への示唆に富む。



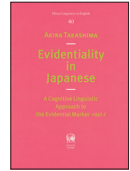
Hituzi Linguistics in English

No.40 Evidentiality in Japanese

A Cognitive Linguistic Approach to the Evidential Marker *-rasi-i*

高島彬著 菊判・156頁・978-4-8234-1278-3 定価11,000円＋税 発行2025.3

証拠性 (Evidentiality) とは、発話者が発話する情報をどのようにして取得したのかを表す言語カテゴリーであるが、認知言語学が分析の中心としてきた英語には文法的な証拠性が存在しないため、いまだ議論の余地を残す領域である。本書では、日本語の証拠性「らしい」を例に、その言語変化、物語論を援用した日本語と英語の比較、ミラティブティへの拡張といった多角的な研究を通して、認知言語学の観点から証拠性を解き明かす。



言語学翻訳叢書

23 近代日本語の時制体系

H. A. スイロミヤートニコフ著 鈴木泰・松本泰史・松浦茂樹訳

A5判・400頁・978-4-8234-1243-1 定価8,800円＋税 発行2025.5

狂言やキリシタン資料から近代日本文学までを分析し、日本語の時間表現の発展の頂点として現代標準語を位置づける。過去や完了の助動詞の交代や減少を、古代語の単純化とは捉えず、発話時を介さない直接的な相対時制の普遍化と、時制関係の近代的一般化として捉える。原著は1971年にモスクワで刊行。日本の近代語の成立を起点から終点まで綿密に論じた重要な研究成果であるにもかかわらずこれまで顧みられてこなかった。本邦初訳。原著：H. A. Сыромиятников (1911-1984) (著) Система времен в новояпонском языке



24 環境言語学

エコロジカルな視点から、言語に現れる物語を問い直す

アラン スティッベ著 グロスマン バリー・小林隆訳

A5判・380頁・978-4-8234-1371-1 定価4,000円＋税 発行2026.10💡

深刻な環境問題に直面するなか、経済学的な論理がメディアを通じて社会の通念となり、生態系に負の影響を及ぼす価値観が内面化される状況を形作っている。本書は環境言語学の中核的著作の初邦訳。批判的談話分析等をもとに、ニュースや広告、教育のテキストに潜む環境破壊的な「物語」——私たちがよりどころとする物語 (stories we live by) ——を可視化する。環境言語学を知る初めの一冊。原著：Arran Stibbe (著) *Ecolinguistics: Language, Ecology and the Stories We Live By*.



シリーズ言語学と言語教育

47 外国人日本研究者の古典日本語の学習支援

山口真紀著 A5判・292頁・978-4-8234-1270-7 定価7,800円＋税 発行2025.2

日本語学習者の中には、古典日本語で書かれた資料を用いて研究を行う人たちがいる。日本研究を行う彼らに必要とされる言語教育上の支援とは何であるのか。この疑問に答えるために、海外教員への質問紙調査や学習者へのインタビュー、読解過程の分析等を通して彼らの古典日本語学習・理解の実態を明らかにし、それに基づく授業実践を行った。今まで明らかにされてこなかった古典日本語習得の実態とその支援について考える画期的研究。〈日本学術振興会助成刊行物〉



48 モノリンガルとバイリンガルが混在する地域における説得研究

キルギス語とロシア語の文章に基づく言語使用の実験

西條結人著 A5判・196頁・978-4-8234-1271-4 定価7,000円＋税 発行2025.2

モノリンガルとバイリンガルが混在する地域における説得の方略にはどのような特徴があるのか。本書では、中央アジアのキルギス共和国を取り上げ、キルギス語、ロシア語の文章において、書き手が主観と客観をどのように配置しているか、どのような立論形式を用い、読み手の信頼を得ようとしているか、古典修辞学の枠組みを用いて分析する。文章における説得行為を通じて、1つの社会の言語使用の実験を論じた、画期的な研究書。〈日本学術振興会助成刊行物〉



49 学術英語教育のための技能統合型タスク 字幕と事前学習を中心に

細越響子著 A5判・292頁・978-4-8234-1282-0 定価7,200円＋税 発行2025.3

四技能統合型の英語教育が推進される中、学術英語教育への導入はまだ研究の蓄積がない。本書は学習補助として、字幕や事前学習などの足場かけの有効性の調査結果をもとに技能統合型タスクを開発、長期の授業実践でタスクの効果を検証し、音声知覚、内容理解、長期的な英語運用能力の向上が見られたことを実証的に明らかにする。英語オンライン講義等に教材として足場かけをすることで、英語力向上へ導くあらたな指導観を提案する。〈2026年度大学英語教育学会褒賞学会最優秀賞受賞〉



50 オートポイエティックな言語学習による変容

学びが楽しくなる日本語教育をめざして

新井克之著 A5判・244頁・978-4-8234-1283-7 定価5,200円＋税 発行2025.10

就職や進学といった「実益」に直結しない言語学習の意味とは何か。本書ではまず、ヨーロッパ言語共通参照枠にて提示された“Can-do”を批判的に考察し、その問題点を指摘する。それから、中米グアテマラで「趣味」として日本語を学習する学生と青年海外協力隊の日本語教師を対象に、PAC分析、ライフストーリーインタビューを併用した調査によって関係者の内面にフォーカスし、社会理論を援用しながら言語学習の根源的な意味を考察する。



51 社会文化理論から見る日本語教室談話の研究

「自発的発話」とプライベートスピーチ

加藤伸彦著 A5判・248頁・978-4-8234-1320-9 定価7,600円＋税 発行2026.5

本書はヴィゴツキーから始まる社会文化理論に依拠し、日本語教室における主体性に基づく自発的発話とプライベートスピーチを分析した研究である。本書では日本語学習が個人の認知過程に還元されるものではなく、相互行為を通じて社会的に構成される過程であることを、上記の分析に基づき実証的に明らかにした。これは第二言語習得研究と日本語教室研究に新たな視座を提示し、教育実践と学術的議論の架橋を試みる学術的成果である。



52 戦後日本語教育はどう実践されてきたか

政策および体制の構築と関連して

川上尚恵著 A5判・264頁・978-4-8234-1324-7 定価6,800円＋税 発行2026.2

戦中、日本語教育が軍事・政治的目的から推進されてきたことはよく知られている。では、終戦以降、日本語教育はどうあったのだろうか。本書では、戦中から1970年代頃までの社会の変化を背景に、留学生・技術研修生への日本語教育、日本語教師の育成・海外派遣などのテーマを検討し、日本語教育の実践や課題が社会的課題や政策とどのような関わりにあったか迫る。日本語教育政策が推進されている「今」を考えることにもつながる一冊。〈日本学術振興会助成刊行物〉



シリーズ認知と言語

1 環境を語る言葉 生態心理学から見た語彙意味論

仲本康一郎著 A5判・266頁・978-4-89476-622-8 定価4,200円＋税 発行2025.10

本書は、認知言語学の経験基盤主義に生態心理学の実在論を融合させ、環境が人間に対して有意味な構造を持つという視点を加えることで、言語が単なる人間の主観的な認知プロセスの反映ではなく、環境との相互作用に基づく活動を通じて形成されることを主張する。これまでの静的な言語観を超え、環境における実際の活動や経験に根ざすダイナミックな言語観を提示し、言語研究の新たな地平を切り拓く革新的なアプローチを展開する。



2 日英語の可能表現の本質

アフォーダンスと原因帰属から見た英語中間構文と日本語無標識可能表現

本多啓著 A5判・370頁・978-4-89476-623-5 定価4,600円＋税 発行2025.10

本書は、従来主としてヴォイス現象として議論されてきた英語中間構文を可能表現の観点から見直し、あわせて対応する日本語可能表現について論じた、認知言語学の研究書である。理論的な枠組みとしては、生態心理学のアフォーダンスと社会心理学の原因帰属を採用している。本書の緻密にして壮大な議論は、英語中間構文と周辺構文についての見方を根本的に刷新することを促すものとなっている。



待望の2冊目刊行！ シリーズ フィールドインタラクション分析(高梨克也監修)

5 「三夜講」で火祭りを準備する 野沢温泉道祖神祭りの伝承を支える仕組み

榎本美香編 A5判・268頁・978-4-89476-735-5 定価4,200円＋税 発行2026.4

この巻では、北信濃野沢温泉の道祖神祭りの準備を担う「三夜講」と呼ばれる3世代100名程度の集団の協働インタラクションを分析する。言葉では表現しきれない身体技法や作法とともに、目上の者への礼儀を重んじ、公の前に自己犠牲を厭わず、誠意のある仕事をするという伝統的精神が伝承される様を著す。執筆者：阿部廣二、榎本美香、坂井田瑠衣、高梨克也、寺岡丈博、伝康晴、坊農真弓、細馬宏通、森内康博



ひつじ研究叢書(文学編)

18 芥川龍之介における海外文学受容 旧蔵書越しに見える風景

澤西祐典著 A5判・500頁・978-4-8234-1279-0 定価7,200円＋税 発行2025.3

「あらゆるものを本の中に学んだ」(「大導寺信輔の半生」)とする芥川龍之介はどのような洋書を読み、どのように執筆に活かしていたのか。焼失した卒業論文(ウィリアム・モリス論)の正体、代表作「地獄変」の典拠、翻訳体験が芥川の文体へ与えた影響、旧蔵書に挟まれた押し花や書簡など、日本近代文学館等に残された芥川龍之介旧蔵書・洋書を手がかりに実証的に辿る。巻末には旧蔵書・洋書への書き込み一覧・読書年譜付き。■Kindle版も発売中。〈第31回日本比較文学会賞受賞〉



19 夏目漱石 偶然性の文学 国学とプラグマティズムから

佐藤深雪著 A5判・364頁・978-4-8234-1312-4 定価7,500円＋税 発行2026.5

自由と独立と己に満ちた漱石文学の主人公は、偶然性にしてやられ、なぜか他動的である。本書は漱石文学を偶然性から再考し、そのために国学とプラグマティズムの視座を導入した。漱石は、藤岡作太郎との交友を通して上田秋成の文業を継承し、同時にジェームズ兄弟とチャールズ・サンダース・バースの同時代人でもあった。固有性と普遍性、偶然性と必然性、自己本位と則天去私、これらの矛盾を統合したことに漱石の独自性がある。



20 村上春樹 世界文学とアダプテーション

山根由美恵著 A5判・418頁・978-4-8234-1315-5 定価7,400円＋税 発行2026.9

村上春樹文学を「世界文学」として捉え、その翻訳・翻案がいかにグローバルな読者と結びついているかを探る一冊。本書は、『螢・納屋を焼く・その他の短編』を中心に、村上文学の異文化間の影響や、映画・舞台・漫画などのアダプテーションの創造性を分析。世界各国での受容と再解釈のプロセスを明らかにし、村上春樹の作品が持つ越境性を浮き彫りにする。翻訳研究や文学研究の新たな視点を提供する必読の書。



22 三島由紀夫の作家像形成のストラテジー

中村佑衣著 A5判・232頁・978-4-8234-1337-7 定価7,000円＋税 発行2026.2

三島由紀夫の作家としての立場を確固たるものにしたのは『金閣寺』であるが、その三島のイメージを固定化してよいのか。本書では、従来は看過されてきたそれ以前の短編小説にも光を当て、ニーチェなどの哲学思想から三島の文学理論を解釈し、三島の作家像の生成と脱構築の過程を辿り、従来の確固とした三島像を問い直す。三島が求めた固定化されない作家像は、メタバースが普及しつつある現代の主体の在り方にも通じるものがある。



32 〈私〉の拡大と物語の現在 戦後日本の近現代文学、サブカルチャー

山田夏樹著 四六判・504頁・978-4-8234-1299-8 定価6,800円＋税 発行2025.5

三島由紀夫、大江健三郎、北杜夫、村上春樹などの戦後文学や、手塚治虫、富野由悠季などのサブカルチャーを再読し、〈私〉の変容を探る。かつて内面的な自己表現の場であった物語は、現代のキャラクター化や断片的消費の中で新たな意味を持つ。戦後文学における〈私〉の語りとネット時代の自己演出を結びつけ、物語の受容とアイデンティティの変遷を読み解く。過去と現在を横断しながら〈私〉とナラティブのあり方を問い直す一冊。



33 中島梓と「やおい」の時代 「1968年」の「革命」を視座として

金子亜由美著 四六判・368頁・978-4-8234-1310-0 定価3,400円＋税 発行2025.10

「六八年革命」としての学生運動は、「やおい／ボーイズ・ラブ(BL)」の成立にいかなる影響を与えたのか。本書では、少女マンガの「革命」を謳った竹宮恵子の「美少年マンガ」や、「川口君事件」の衝撃から生み出された中島梓の「少年愛」小説などを分析することを通じて、その背後にある「六八年」の記憶を炙り出す。「やおい／BL」が、「六八年」を別の形で継続する「革命」であったことを明らかにする画期的研究書。〈朝日新聞書評掲載〉



34 太宰治のエディターシップ

滝口明祥著 四六判・332頁・978-4-8234-1314-8 定価3,600円＋税 発行2025.10

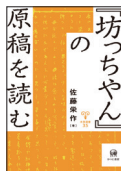
太宰治の作品は、さまざまな〈引用〉のモンタージュによって成立している。そして、そうした太宰の作品を複数読むことによって、読者の欲望は太宰治という作家それ自体へと向かうようになる。いわば、太宰治の全作品が〈太宰治〉を形成するモンタージュとなっているのだ。本書は、そうした仕組みがどのように形成されてきたのかを探るとともに、太宰作品の多面性をも明らかにすることとなるだろう。



35 『坊っちゃん』の原稿を読む

佐藤栄著作 四六判・312頁・978-4-8234-1358-2 定価4,400円＋税 発行2026.10

コーパスによる日本語研究が深化・進展する今こそ、第一次資料としての手書き資料の貴重さが際立ってくる。いつ、誰が書いたのかが確実な文字列の資料価値は高い。本書は、多く残された夏目漱石の自筆原稿のうち、高浜虚子の手入れが認められるとされる『坊っちゃん』と、『道草』の書き直し原稿を取り上げる。漱石は、どんな字をどのように書いたのか。言語研究、文学研究の前提・基盤として確認しておきたいことを示す。



「注文の多い料理店」はなぜ曖昧か

児童文学から学ぶ意味の世界 西山佑司著 A5判・348頁・978-4-8234-1335-3 定価2,800円＋税 発行2026.6

第I部では、児童文学から有名なフレーズをいくつかとりだし、表面的には単純な表現の背後に、目に見えない糸が織りなす豊かな意味の世界が隠れていることを見ていく。第II部では、宮沢賢治の作品のタイトル「注文の多い料理店」に焦点を当て、このフレーズがなんと7通りに曖昧であることを論じる。この議論を通して、子どもの心に内在する言葉の意味についての、通常は意識されることがない深い知識を浮き彫りにする。〈日本経済新聞書評掲載〉



ことばをどう捉えるか 言語の自明性を問い直す

木村護郎クリストフ・尾辻恵美著 A5判・120頁・978-4-8234-1353-7 定価1,600円＋税 発行2026.3

国や地域、民族などによって言語を命名して把握することに疑問が呈されている。「〇〇語」よりもむしろレパートリーに注目すべきではないか。さらには、「言語」概念自体を再考すべきではないか。その疑問は正当といえるが、「言語」が「レパートリー」という二分法にしてしまうと、かえって構築されることばのダイナミズムを捉え損ねてしまう危険性もある。二人の研究者による、言語の存在論と認識論を問い直す徹底した議論の書。

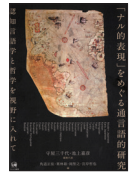


「ナル的表現」をめぐる通言語的研究 認知言語学と哲学を視野に入れて

守屋三千代・池上嘉彦編集代表 角道正佳・栗林裕・岡智之・宮岸哲也編

A5判・524頁・978-4-8234-1200-4 定価 9,000 円＋税 発行 2025. 3

日本語の動詞「ナル」は、主に事物の「出来(例：実がナル)・変化(例：氷が水にナル)」を専用に表すが、ユーラシアの諸言語にもこうした「ナル相当動詞」があり、「主格／ゼロ格」を伴って「出来」を表し(例：実(が)ナル・氷が水(が)ナル)、派生的に「変化」の意味を表す。本書はこうした「ナル・ナル相当動詞」を伴う「ナル的表現」をめぐる 28 言語の調査結果と、記述言語学・認知言語学、および哲学の観点に基づく論考 47 本を収める。



語用論的方言学の始動

小林隆・中西太郎・津田智史編

A5判・648頁・978-4-8234-1319-3 定価 10,500 円＋税 発行 2025. 11

近年、語用論の発展はめざましいものの、語用論と方言学とが交差するところに生まれる「語用論的方言学」はまだ産声を上げたばかりである。本書は、方言学の新たなパラダイムを描き出すとともに、社会語用論や歴史語用論とのリンクをも視野に入れ、この分野の研究を大きな潮流へと向かわせるひとつの契機となることを企図して編んだ論文集である。執筆者：新井小枝子、太田有紀、沖裕子、尾崎喜光、加順帆帆、川崎めぐみ、岸江信介、櫛引祐希子、甲田直美、後藤典子、小西いずみ、小林隆、斎藤敬太、齋藤すみれ、峪口有香子、佐藤亜実、椎名渉子、塩田雄大、田附敏尚、ダニエル・ロング、津田智史、友定賢治、中西太郎、半沢幹一、船木礼子、松田美香、三宅和子、森勇太、矢島正浩、安井寿枝



言語行動論考

杉戸清樹著 A5判・594頁・978-4-8234-1275-2 定価 10,000 円＋税 発行 2025. 7

言語行動を考察対象に据えた著者の既出論文約 40 件を集録。各論文の当初の内容を生かしつつ、部立て構成により一書として言語行動論を企図する。言語生活研究や社会言語学を考察の足場に位置付けて、言語行動の多様性を視野に入れる観点を具体的に示したのち、あいさつ・待遇表現・決まり文句・省略などの言語事象を改めて言語行動として考察することの意義や可能性について、手がかりとなるメタ言語行動表現を焦点にして論じ及ぶ。



メディアと「おネエことば」

クロスジェンダーする日本語、キャラクタ化する「おネエことば」

河野礼実著 四六判・320頁・978-4-8234-1322-3 定価 4,400 円＋税 発行 2026. 9

メディア上でよく耳にする「おネエことば」。本書では、新聞、雑誌、テレビのトーク番組、映画、ドラマ、小説、マンガなど、各種メディアから集めたデータを材料に、「おネエことば」について実証的に明らかにしていく。「おネエことば」とはどのようなことばなのか。メディア上でどのように表現されているのか。メディアに取り込まれ、広く流通し、消費されていく中でキャラクタ化した「おネエことば」を多角的視点から論じる。

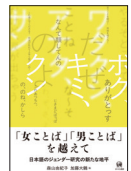


「女ことば」「男ことば」を越えて 日本語のジェンダー研究の新たな地平

森山由紀子・加藤大鶴編

A5判・404頁・978-4-8234-1291-2 定価 5,000 円＋税 発行 2025. 10

ジェンダーについての理解が急速に深まりつつある現在、日本語学の視点から、どのような知見が提供できるだろうか。男ことば・女ことばとはなんだったのか。実際の言語行動とジェンダーの関係はどのように分析・解釈されるのか。地域言語・歴史的言語を含めた言語実態の観察をベースに、日本語のジェンダー研究をアップデートする一冊。執筆者：石川慎一郎、遠藤織枝、荻野綱男、尾崎喜光、加藤大鶴、上林葵、金水敏、小磯花絵、甲田直美、佐竹久仁子、高木千恵、田中牧郎、日高水穂、三宅和子、森山卓郎、森山由紀子、森勇太



日本語表記のアーキテクチャ／ The Architecture of Written Japanese

今野真二、クリストファー・ローウィ著

A5 変形判・312 頁・978-4-8234-1289-9 定価 3,400 円＋税 発行 2026. 3

日本語は仮名がうまれた 9 世紀末以降、表意文字である漢字と表音文字である仮名とを使って文字化を行ってきた。こうした文字化を行なっている言語は少ないだけではなく、それと同じような文字化によって文学を書く言語もほぼ皆無である。どのような構造＝アーキテクチャの中でこの日本語表記システムが機能しているかという課題から船出して、非ソシユールのな観点も織り込みながら、新たな〈文学の文字論〉を検証した画期的な一書。英語と日本語で執筆。ウェブマガジンの人気連載を書籍化。

日本語韻律の音声的特徴とその習得

林良子編 A5 判・416 頁・978-4-8234-1326-1 定価 7,200 円＋税 発行 2026. 2

日本語学習者による韻律の習得研究は、重点領域「日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究」(1989～1992)により広がった。本書では、東京語アクセントテスト、OJAD 開発等の研究史を振り返り、国内外の音声指導、学習者音声の韻律的特徴、日本語音声の国際化と、盛り沢山の内容で日本語学習者音声研究の過去から未来に迫る。執筆：阿部新、磯村一弘、上山素子、王睿米、王可心、金村久美、河津基、木下直子、木元めぐみ、クリスシェパード、柴田智子、孫悦、伊達宏子、陳凱僑、中川千恵子、中村堯、波多野博顕、林良子、松田真希子、峯松信明、林萍萍〈日本学術振興会助成刊行物〉

日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第3巻

テンス・アスペクトの習得と教育

稲垣俊史・庵功雄編

A5 判・176 頁・978-4-89476-783-6 定価 3,600 円＋税 発行 2026. 5

シリーズ『日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す』の第3巻。テンス・アスペクトの習得と教育に関する研究を集めた。タの母語習得、ロシア語話者のティナイの習得、ポルトガル語話者と英語話者のテイルの習得、テイルの指導効果、日本語話者の韓国語習得と指導効果、日本語話者の英語習得、最近の文献紹介など、テンス・アスペクトを習得と教育の観点から多面的に捉える。執筆：庵功雄、稲垣俊史、菅野和江、柴田美紀、菅谷奈津恵、中山峰治、西坂祥平、橋本ゆかり、濱田真澄、堀江薫、吉村紀子、柳朱燕

文と時間 日本語のテンポラリティーとタクシス

工藤真由美著 A5 判・264 頁・978-4-8234-1265-3 定価 5,000 円＋税 発行 2025. 4

『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』(2014)に続く本書では、言語活動の基本的単位である文が、場面・文脈というコンテキストのなかで、どのように時間を表現するのかを、総合的に明らかにすることを目指している。前著では、形態論的なアスペクト・テンス形式に焦点をあてて考察したが、本書では、テンポラリティーやタクシスという連文や複文レベルの時間表現に焦点をあてて考察する。あわせて奥田靖雄論を補部として付けている。

日本語文法・文論 複文研究

奥田靖雄・言語学研究会編 工藤真由美解説

A5 判・474 頁・978-4-8234-1309-4 定価 6,000 円＋税 発行 2025. 12

奥田靖雄は、連語論とアスペクト研究で広く知られているが、複文論についてはあまり知られていない。関連する諸論文がさまざまな媒体で発表されており、全体像の把握が難しいこともその一因だろう。本書は、奥田の複文論を体系的に集約し、工藤真由美による全体像の解説も付すことで、この分野における奥田の論の先見性と文法研究史への貢献の可視化を試みる。複文論を専門とする研究者だけでなく、広く日本語文法に興味を持つ人々にとって示唆に富む内容となっている。



世界の配慮表現

山岡政紀・西田光一・李奇楠編

A5判・232頁・978-4-8234-1295-0 定価 3,600 円＋税 発行 2025. 5

コミュニケーションにおける対人関係調整機能としてのポライトネスはあらゆる言語に通じる普遍的現象とされている。日本語ではポライトネスが慣習化して成立する配慮表現の研究が近年盛んだが、ポライトネスが慣習化する傾向はどの言語にも見られ、各言語に固有の配慮表現が成立している。本書では日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語、アラビア語の配慮表現について各言語に詳しい専門家と共同研究を重ねた成果を報告する。執筆者：山岡政紀、西田光一、李奇楠、小野正樹、金玉任、スワンナクート・パッチャラーバン、リナ・アリ、牧原功、甲田直美



言語研究に潜む英語のバイアス

大谷直輝・中川裕・野元裕樹・長屋尚典編

A5判・356頁・978-4-8234-1296-7 定価 6,800 円＋税 発行 2025. 10

言語学の発展は、共通の理論や枠組みによって支えられてきたが、それらは強力な言語の影響を受けやすいものである。本書では、英語をはじめとする強力な言語が個別言語研究に与える影響を、多岐にわたる 16 の事例を通じて分析している。言語学の理解を深めたい方々にとって、有益な洞察を提供する一冊である。執筆者：浦田和幸、大谷直輝、河内一博、川村大、後藤雄介、斎藤弘子、高嶋由布子、中川裕、永井慧、長屋尚典、西山國雄、沼畑向穂、野元裕樹、濱田武志、藤縄康弘、松本曜、峰岸真琴、宮内拓也、吉枝聡子



方言の研究 11 特集 方言研究と日琉歴史言語学研究的接点

日本方言研究会

A5判・320頁・978-4-8234-1327-8 定価 5,000 円＋税 発行 2025. 10

特集「方言研究と日琉歴史言語学研究的接点」として 5 本、そのほかに 6 本の論文を掲載する。また解説論文として「自然談話資料による方言研究」と「古い紙媒体方言資料のデジタル・コーパス化による文法研究」を収める。扱われた地域（東北、東京、琉球など）や研究資料（現地調査によるものや国内外の文献資料）の面においても多彩。執筆者：風間伸次郎、菅野倫匡、久野マリ子、阪上健夫、佐藤栄作、竹内史郎、中村明裕、野間純平、松岡葵、宮川創、ヤロシュ・アレクサンドラ、尹熙洙、ローレンス・ウエインほか



方言の研究 12 特集 書き言葉と方言

日本方言研究会

A5判・200頁・978-4-8234-1373-5 定価 5,000 円＋税 発行 2026. 10 🟡

特集「書き言葉と方言」として 5 本、そのほかに 1 本の論文を掲載する。また解説論文として「地方在住の日本語非母語話者と方言」と「多様なことばの伝え方」を収める。音声言語中心・記述研究中心になりがちな方言研究に対して、方言研究資源としての書き言葉の重要性と方言実践活動の可能性に目を向け、多面的な見方を提示する 1 冊。執筆者：小川晋史、北崎勇帆、久保園愛、斎藤敬太、白岩広行、中村堯、モラリス・ミッラ、横山晶子



近代小説にとって会話文とは何か

半沢幹一著 A5判・388頁・978-4-8234-1330-8 定価 6,200 円＋税 発行 2026. 2 🟡

前著『古典文学にとって会話文とは何か』の続編である。ここに言う「近代小説」とは明治期の作品であり、仮名垣魯文「安愚楽鍋」から森鷗外「雁」までの 13 作品を取り上げ、それぞれにおける会話文の様相を記述した。言文一致化が地の文の改変である中、それへの引用としての会話文が各作品においてどのように位置付けられ、どのような役割を果たしたのかについて、それぞれの文体や主題、構成・展開、人物像などとの関係もふまえながら、論じた。



古典文学にとって会話文とは何か

半沢幹一著 A5判・320頁・978-4-8234-1292-9 定価 5,200 円＋税 発行 2025. 5

地の文中心に捉えられてきた、日本の古典文学における文章・文体史において、会話文による表現はどのように位置付けられるか。その問題意識から、個別にしか取り上げられることのなかった会話表現について、上代の古事記から近世の雨月物語まで、ジャンルと時代の異なる 12 の作品を取り上げ、会話文の定量的・定性的な調査から、それぞれの特徴を明らかにすることを通し、全体として会話表現史なるものが成り立つか、検討を試みた。



村上春樹にとって比喩とは何か

はんぎわかんいち著

四六判・308頁・978-4-8234-1264-6 定価 3,400 円＋税 発行 2025. 1

文学作品一般において必須な方法とは言えない比喩であるが、村上春樹の文章においては欠かすことのできない、きわめて重要なレトリックである。その中核にあるのが、分かるようで分らない「比喩もどき」である。その「比喩もどき」が彼の初期作品から最近作に到るまで、どのように、なぜ現れているかについて、村上春樹の言語・文体・翻訳・ジャンルなどに対する考え方を参照しつつ、総体的に捉えようとしたのが小著である。



日中対訳オノマトペ例解辞典

張新力著 A5判・568頁・978-4-8234-1272-1 定価 9,600 円＋税 発行 2025. 2

初の日中対訳オノマトペ辞典。中国語のオノマトペは日本語に比べてはるかに少なく、日本語学習者の壁となっている。本辞典では、日本語のオノマトペに丁寧な中国語訳を付けて、意味・用法をわかりやすく説明。また、実際に見聞きするような用例を豊富に収録した。1700語以上を掲載し、現在使われている語はほぼカバー。普遍的に使用されている語が中心ではあるが、定着すると思われる新語も掲載した。学習者の即戦力となる辞典である。



コーパスと語用論研究

山内昇・大木力著

A5判・292頁・978-4-8234-1313-1 定価 3,600 円＋税 発行 2025. 10

語用論研究におけるコーパス利用の現状を概観し、利用が先行してきた語法文法研究、特にコロケーション研究を中心に、心の中の言語知識を研究するための資料としてのコーパスデータの位置付け、検索方法・分類・数値化・解釈等の問題について検討した後、語用論研究においてコーパスを適切に活用するのに必要となる関連概念や The Movie Corpus 検索時の注意点を上げる。最終章ではコーパス研究における失敗学の試案を提起する。



サーチエンジン・テキストエディタ・表計算ソフトで学ぶ

言語研究のためのテキストデータ処理入門

大木力著 A5判・160頁・978-4-8234-1248-6 定価 2,200 円＋税 発行 2025. 5

利用可能なデータは多くとも適当な処理手段なしには有効活用することはできない。本書では、言語研究のための専用ツールではなく、サーチエンジン、正規表現、テキストエディタ、表計算ソフトを用いてテキストデータを検索・加工する方法について学ぶ。処理の過程を確認しながら入力・処理・出力をセットで捉えるデータ処理の感覚を身に付けるとともに、研究以外でも使える知識・技術を習得することを目指す。演習問題付き。



対照理論言語学を始めよう

言語機能の仕組みから探る日本語スペイン語対照研究

片岡喜代子著 A5判・184頁・978-4-8234-1345-2 定価 2,800 円＋税 発行 2026. 4

言語を用いる時に無意識に従うルールは、人間なら全て脳に備わる言語機能に蓄えられている。その観点から、言語機能の仕組みという同じ器に入れて日本語とスペイン語を対照させると、意外な共通点が見え、同時に相違点もより明白に。これまで気が付かなかった新たな視点で、複数の言語を対照研究する入門書。スペイン語学習での疑問やつまづきを解決するヒントにも。各章ごとの練習課題と関連文献を更なる考察の参考に。



論証意味論入門 語・発話・テキスト・発話活動の言語学

西脇沙織著 A5判・220頁・978-4-8234-1348-3 定価 3,000 円＋税 発行 2026. 2

フランスで「論証意味論」と呼ばれる意味へのアプローチが発展している。この学派はソーシャルやパンヴェニストらの語と語の関係性から意味を捉える立場を批判的に継承することで、意味を世界の事物や事態と結びつける意味論と対峙する独自の潮流を形成し、「語と語の論証の関係性」という観点から、語、文、テキスト、発話活動を分析する道具立てを提供する。本書は、理論の理念と研究成果を解説する国内初の概説書である。



認知社会言語学への招待 認知言語学の新しいアプローチ

渋谷良方著 A5判・340頁・978-4-8234-1306-3 定価4,000円＋税 発行2026.1

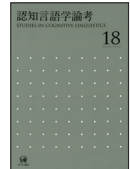
実際の言語使用には、常に変異が伴う。この側面は、認知言語学では長らく十分に論じられてこなかった。しかし、変異を無視して、言語使用を十全に理解することは不可能である。本書は、認知言語学の社会的転回を象徴する「認知社会言語学」について、多様な研究成果を紹介しながら、この新しいアプローチの理念、分析に用いられる方法論、そして得られた結果の解釈のなされ方を詳しく解説する、国内初の包括的な概説書である。



認知言語学論考 No.18

山梨正明編 A5判・386頁・978-4-8234-1277-6 定価9,800円＋税 発行2025.1

目次：小松原哲太 人間を表す換喩にこもる負の評価／澤田淳 ダイクシスからみた時空間メタファー／田丸歩実 メタファー標識は修辭性を弱めるのか？／對馬康博 創発的構文・橋渡し構文の発現の認知メカニズムとカテゴリーの構造化について／仲本康一郎 日本語の数量表現の概念分析／中村渉 古英語における限定詞のパラダイム／西村綾夏・黒田一平 打ちことばの感情はいかに表現されるか／長谷部陽一郎 談話の積層構造モデル／南佑亮 情報構造と事態把握／榎山泰斗 「AはBの代名詞」形式の分析

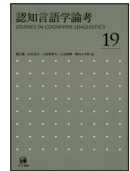


認知言語学論考 No.19

堀江薫・渋谷良方・小松原哲太・大谷直輝・堀内ふみ野編

A5判・328頁・978-4-8234-1372-8 定価9,800円＋税 発行2026.9

目次：福田航平 英語学習者の迂言的使役構文の使用に関する用法基盤分析／稲生秀俊・森真衣・鋤持あかね 英語 *ahead* の時間意味「以前／以後」における多義と分布／菊田千春 始動用法の複合動詞 V カルと V ケルの非対称性／木本幸憲 副詞カテゴリーとその叙述的機能／Naoki Kiyama To Boldly Split the Infinitive／高橋英光 Will you と Can you 依頼文／坪井栄治郎 受動文の多さに表れる SOR 構文の特殊性／王安・上原聡 現代中国語の形容詞重ね型の意味拡張／張曉琳 中国語における形容詞の時間把握



メタファー研究 3 特集：身体性・AI はメタファーを理解できるか

鍋島弘治朗・楠見孝・内海彰・河野哲也・菅村玄二編

A5判・392頁・978-4-8234-1132-8 定価5,500円＋税 発行2026.3

言語学、心理学、工学など、様々な立場からレトリックを研究し、意見交換する場を提供することを目的とした日本語用論学会メタファー研究会の発表を中心としたシリーズ。執筆者：河野哲也、菅原和孝、三村尚彦、加藤祥・浅原正幸、福市彩乃・村上祐介・菅村玄二、崎田(山本)佑実・菅村玄二、岡村心平、児玉北斗、秋田喜美、武藤彩加、町田章、杉本巧、鍋島弘治朗、吉田勇翔、梅村奏子・狩野芳伸、ジェブカ ラファウ・竹下昌志、楠見孝



グライス語用論の展開 非自然的な意味の探究

平田一郎著 A5判・400頁・978-4-8234-1274-5 定価4,900円＋税 発行2025.2

グライスの協調の原理は、命題的な発話から命題的な推意を生み出す仕組みとして理解され広く支持されている。本書では、グライスが提唱するもう1つの重要概念である非自然的な意味を精査することで、非命題的な発話の意味と非命題的な推意の生まれ方を非自然的な意味と協調の原理の相互作用から理解することが可能であることを示す。また、語用論的な意味を可視化する仕組みを提案し、目に見える形で語用論の意味を論じていく。(2025年度日本英語学会賞(著書)受賞)



境界と周縁 社会言語学の新しい地平

三宅和子・新井保裕編

A5判・288頁・978-4-8234-1273-8 定価 3,400 円＋税 発行 2025. 2

本書は、21 世紀の言語・コミュニケーションの課題に「境界」と「周縁」の視点から迫る。ジェンダー、翻訳通訳、危機言語、移動する人々、方言やマイノリティ言語、言語実践のリアリティなどをテーマとする 11 の論考は、「境界」と「周縁」の恣意性、曖昧性、政治性、暴力性、潜在するイデオロギーを多様な論点と方法で顕在化させ、新たな研究の地平を照らし出す。執筆者：新井保裕、新垣友子、井上史雄、尾辻恵美、木本幸恵、熊谷滋子、クレア・マリィ、寺尾智史、坪井睦子、藤越、三宅和子

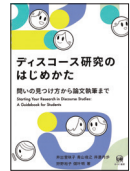


ディスコース研究のはじめかた 問いのを見つけ方から論文執筆まで

井出里咲子・青山俊之・井濃内歩・狩野裕子・儲叶明著

A5判・240頁・978-4-8234-1258-5 定価 2,700 円＋税 発行 2025. 2

ことばと文化社会のかかわりに関心をもち、ディスコースを研究してみたい高校生、大学生、修士課程学生が手元に置いて役立つ研究と論文執筆のガイド。豊富な研究事例とともに日常会話の分析、インタビューのやり方からメディアディスコースの研究手法までをわかりやすく紹介。ディスコース研究のイミと面白さ、問いの探し方と研究方法、ゼミの場の活用から執筆の作法まで、論文完成の道のりを強力にサポートする一冊。



入門 デジタルメディアの言語研究

デジタルコミュニケーション研究会編

A5判・176頁・978-4-8234-1336-0 定価 2,800 円＋税 発行 2026. 6

いまや日常の至るところで目にするデジタルメディア上のことばを、言語学の基礎から読み解く入門書。インターネットスラング、絵文字、LINE、ビデオ通話、ライブ配信などを幅広く取り上げ、コーパス、API の活用や研究倫理まで見通しよく解説する。初学者から研究手法を改めて整理したい研究者まで、幅広い読者に役立つ一冊である。執筆者：落合哉人、菊地礼、黒田一平、酒井晴香、新山聖也、西村綾夏、山崎由佳



音声を「目」で見る音声学入門 日英語の音素から韻律まで

水口志乃扶・林良子・立石浩一著

A5判・208頁・978-4-8234-1342-1 定価 2,400 円＋税 発行 2026. 10

本書は、日本語と英語を主な素材とし、音の作り方から、組み立て、韻律の付け方までを初歩から学ぶための音声学の教科書である。読んで知るだけでなく、Praat を用いた音声録音、分析の演習を組み込み、実際に読者に音素、アクセント、音調句を自分がどのように発音しているのかを耳で聞くだけでなく、「目」で見て可視化し分析できる力をつける。調音運動は MRI 画像・動画を示し、Praat の操作手順も図や動画を用いて視覚的に解説する。



概説レトリック 表現効果の言語科学

小松原哲太著

A5判・274頁・978-4-8234-1297-4 定価 2,500 円＋税 発行 2025. 3

昔も今も、言語の技術は社会生活の切実な問題である。「話し方を変えれば人生が変わる」「文才術で成功する」と謳う本は巷に溢れているが、言語技術の研究史の原点は、修辞学(レトリック)にある。本書は、相手の思考、感情、行動に、言葉がさまざまな影響を与えるメカニズムを言語科学の立場から探求し、実例にもとづいて、古今の修辞学のエッセンスを概説する。認知言語学の比喩論にとどまらず、レトリックの全貌を描く。■Kindle 版も発売中。



ベーシック学習者コーパス研究 英語・日本語学習者コーパスを用いた研究実践

石川慎一郎著 A5判・312頁・978-4-8234-1349-0 定価 2,800 円＋税 発行 2026. 8

英語学習者コーパス ICNALE と日本語学習者コーパス I-JAS のデータを用い、学習者コーパス研究に必要な個別語分析・テキスト分析・統計分析の手法を丁寧に解説。全 14 章構成で、KWIC 検索、共起語検索、特徴語検索、回帰分析による習熟度推定、対応分析を用いた学習者と語群の同時マッピングなど、11 種の手法が紹介される。コーパスデータに立脚した新しい第 2 言語習得研究を学ぼうとする読者にとって最適の手引。



人文学系学生のためのはじめての量的研究・質的研究

西田理恵子・岡田悠佑・秦かおり編

A5判・292頁・978-4-8234-1351-3 定価 3,000 円＋税 発行 2026. 5

はじめて研究に携わる学部生・大学院生を対象とした研究方法論のテキスト。量的研究と質的研究の双方を取り上げる。統計の理論の基本(記述統計・相関分析・回帰分析・ t 検定・分散分析・クラスター分析)と質的研究の理論の基礎(会話分析・相互行為言語学・マルチモーダル談話分析・ナラティブ分析・批判的談話研究・エスノグラフィ)を解説。読者が取り組める実践パートも掲載。★Web サイトにてデータ配布・解説あり



ここからはじまる道德教育

平田文子・打越正貴・宮本浩紀著

A5判・364頁・978-4-8234-1288-2 定価 2,900 円＋税 発行 2025. 3

現職の学校教師にも役立つ、「道德の本質」について考えさせる道德教育論のテキスト。いじめ(ハラスメント)の問題は、学校だけの問題ではなく深刻な事態にあるにもかかわらず、小中学校の道德の授業が日常生活と乖離してしまっている。そのような状況を変えるため、本書は理論編だけでなく授業の実践編も設け、現場で役立つ具体的なアプローチの仕方や、現役教師が道德教材として扱いづらいと思っている内容なども解説している。★付録として実際の道德授業の音声記録が視聴可能。



目指せ！ 書ける大学生 今さら聞けないレポート・論文、メールの書き方

朴秀娟・澤村美幸・新井由美著

A5判・316頁・978-4-89476-941-0 定価 2,700 円＋税 発行 2026. 6

レポート・論文などの学術的文章から、電子メールといった実用的文章の書き方まで、大学生活を送る中で、「書くこと」に困った状況に幅広く対応。「レポートって何を書けばいいの?」「こんな時、先生にどんなメールを送ればいいの?」と、多くの大学生がつまづいてしまうレポートやメールの初歩の問題を、親しみやすいマンガで分かりやすく紹介しながら解説する。大学生活に必要な「書く力」の基礎を身につけられる一冊。



大学で学ぶアカデミック・ライティングの教科書

〈書く力〉を引き出す問い 109

甲田直美著 A5判・208頁・2刷・978-4-8234-1302-5 定価 2,400 円＋税 発行 2025. 7

アイディアの発想からアウトライン、パラグラフの組み立て、推敲まで、文章作成に必要な技術を効率よく学べる、「一歩上に行くレポート・論文作成」を目指す人のための教科書。イラスト、写真、図解、問いをふんだんに盛り込み、授業用としても独習用としても万全の1冊。109題掲載した問いは、ベアワークやポイント確認にも使える。この1冊で大学に必要な論理力、分析力、思考力の肝要が学べる。書く技術を一生の宝物に。



プロセスで学ぶ大学生のレポート・論文作成

今村圭介・原田幸子編

A5判・170頁・978-4-8234-1290-5 定価 1,800 円＋税 発行 2025. 3

大学初年次生を主な対象とした、作成プロセスを重視したレポート・論文作成のテキスト。生成系 AI など様々なツールを利用し、典型的な作成プロセスを体験しながら、レポート作成方法を学ぶ。作文技術や作法を学ぶと同時に、個人の自由な思考と協同学習を促し、後のレポート作成や卒業論文作成に活かす。同時に Office やメール、発表方法など、初年次学生が身につけるべきスキルも学ぶ。執筆者：伊藤茉莉奈、今村圭介、宇賀持綾子、小畑美奈恵、後藤大輔、原田幸子



日本語 巡り合い 2

佐々木瑞枝監修 『巡り合い』編集委員会執筆

B5判・212頁・978-4-8234-1217-2 定価3,200円＋税 発行2025.4

「自宅で予習し、授業で(アクティブ・ラーニングを取り入れながら)学ぶ」というように自宅学習を「復習」から「予習」へと「反転」させた「反転授業」に適した教科書。本書は、会話文の場面をマンガで示し、二次元コードによって気軽に会話の音声聞くことができ、マンガという視覚表現と音声という聴覚表現に接することによって、学習者はいつでも、世界のどこでも、楽しく、自発的に予習することができる。2巻は初級の統編となり、本文の内容は、統編として、1年生の秋から春休みまでの大学生の生活が描かれる。(初級2 JLPT N4、CEFR A2 対応)★音源はネットで提供。



日本語 巡り合い 3

佐々木瑞枝監修 『巡り合い』編集委員会執筆

B5判・304頁・978-4-8234-1218-9 定価3,800円＋税 発行2026.1

「日本語教育の参照枠」の示す5つの言語活動を意識して作成された日本語教科書。導入部－マンガの会話を「聞く」「読む」、マンガの内容について「話す」、タスク&アクティビティーで「やり取り・発表する」、読解文を読んでタスク&アクティビティーで「書く」で構成する全18課。話題のテーマは生活・就労・留学・Can Doを意識して選択。3巻は新しい登場人物も迎え、大学2年生の様々な活動が描かれる。(中級 JLPT N3～N2、CEFR A2～B1 対応)★音源はネットで提供。



外国人受け入れへの日本語教育の新しい取り組み

田尻英三編 A5判・292頁・978-4-8234-1253-0 定価2,000円＋税 発行2025.3

2024年4月から、文部科学省の下で日本語教育の体制を一変する大改革が行われることになった。しかし、その全体像への理解は進んでいるとは言えないのが現状である。本書は、その全体像とこれまでの経緯を説明した唯一の書籍である。日本語教育関係者以外にも、行政書士・弁護士・地方公共団体の外国人担当者にも広く読んでいただきたいと願っている。執筆者：浮島智子、加藤早苗、杉山充、田尻英三、中河和子、新居みどり、浜田麻里、真嶋潤子



あらためて「日本語教育の参照枠」を読みなおす

名嶋義直編 新井克之・神吉宇一・名嶋義直著

A5判・120頁・2刷・978-4-8234-1346-9 定価2,000円＋税 発行2026.1

『日本語教育の参照枠 報告』が世に出てから4年になり、日本語教育の制度や実践の形も大きく変わっている。そのような今こそ、『日本語教育の参照枠 報告』をしっかりと読んで、その理念や方向性、光と影、自分自身の向き合い方などを一人ひとりの日本語教育関係者が考えていく必要がある。本書はそのような「読み」と「対話」のきっかけを作り出す本である。



日本語教師を育てる

横溝紳一郎著 A5判・226頁・978-4-8234-1339-1 定価2,600円＋税 発行2026.1

「日本語教育推進法」の施行に伴い、日本語教育そして日本語教員養成機関への新たな期待が生まれている。しかしながら、急激な変化に今後の見通しが見いだせず、混乱する日本語教育関係者も少なくない。そのような状況に対応するためのガイドブックとして「読者に知識だけでなく、できれば『勇気と希望』を与えるものをめざしたい」という思いで本書を執筆した。日本語教員養成機関としてのプログラムを提案する。



地域日本語教育を行政と共に創る

岡山県総社市「総社モデル」の構築と展開

中東靖恵著 A5判・452頁・978-4-8234-1307-0 定価5,000円＋税 発行2025.11

外国人住民の増加と多様化が進む中、自治体における地域日本語教育の体制整備は急がれる課題である。本書は、行政を事業実施主体とする岡山県総社市の日本語教育事業「総社モデル」の構築と展開のプロセスを通して、行政と共に創る地域日本語教育のあり方を提案する。「総社モデル」は、日本語教育の「質」を保証し多文化共生を推進する日本語教室を中核に、持続可能な地域日本語教育の仕組み作りとシステム構築を行うものである。



ろう者と国家、教育の交差

アジア・アフリカ・南米における言語資本としての手話

森壮也編 A5判・364頁・978-4-8234-1338-4 定価6,200円＋税 発行2026.3

世界の約7割は開発途上国である。どの国にもろう者がおり、そこには音声言語とは異なる手話がある。しかし途上国の手話についての研究は驚くほど少なく、その実態も分かっていない。本書は、途上国各国の手話の歴史と現状、言語政策との関わりを論じ、ろう者の社会や手話がマジョリティの社会や国家と教育を通じてどういった関係にあるのかを問う。執筆者：森壮也、小林昌之、古田弘子、Neha Kulshreshtha、宮本律子、亀井伸孝、Marianne Rossi Stumpf、Ronice Müller de Quadros、近田亮平



東アジアから日本へ越境する人々の「言語」と経験

1980年代後半以降を中心に

市川章子著 A5判・280頁・978-4-8234-1266-0 定価6,000円＋税 発行2025.3

本書は、東アジアから日本へ渡った越境者が直面する、言語にまつわるアイデンティティの問題や心理的課題を、複線経路等至性アプローチ (TEA) を用いて質的に分析し、日本語教育や外国人施療の質の向上への貢献を目指す。また、日本語指導が必要な児童生徒や家族に対する母語支援、地域社会で外国人住民が行政サービスを申請する際に日本語だけでなく外国語を活用した支援の確立が必要であることを提示するものである。〈日本学術振興会助成刊行物〉



多民族都市国家シンガポールの言語・文化政策の60年

国民統合政策と華語・華人エスニシティ維持・継承への模索

奥村みさ・菅野敦志編

A5判・220頁・978-4-8234-1344-5 定価3,800円＋税 発行2026.3

シンガポールは1965年の独立以来、多民族多文化都市国家の存続をかけ、経済戦略と共に国民統合を目指し、多文化共生を可視化すべく景観整備に取り組み、英語中心のバイリンガル教育政策を実施してきた。本書はこれら政策の変遷を辿り、功罪を分析し、英語化進行による言語文化社会的影響、特に華語・華人エスニシティの維持・継承への影響を論じる。執筆者：荒川雪、イワサキチエ、奥村みさ、郭俊海、坂口可奈、菅野敦志、藤井久美子



言語教育とコメニウス

松岡弘著 A5判・432頁・978-4-8234-1100-7 定価10,000円＋税 発行2025.9

現代の外国語教育の内容と方法、その基本理念は、実に四世紀も前に一人のチェコ人牧師かつ学校教師によって確立した。その人ヤン・アモス・コメニウスは教授学者・思想家として名高いが、本務は国内外の学校におけるラテン語教育であった。筆者は彼の著した言語教科書、その指導書、理論書を原典に則して読み解き、さらにコメニウスが近現代の中央ヨーロッパの言語教育界にもたらしたものを、日本語教師の目を通して明らかにする。



コンセプトベースの言語教育 日本語教育への応用と可能性

増田恭子編 A5判・200頁・978-4-8234-1331-5 定価3,800円＋税 発行2026.10

本書は、認知言語学と社会文化理論を基盤に、学習者が日本語のコンセプトを内省的に理解することを媒介として言語発達を支援し、日本語教育への実践例をまとめたものである。SCOAやランゲージングを活用し、CEFRの理念と親和性のある教室活動や仮想空間での言語活動を通して、主観的把握・終助詞・受身文・テイル・移動動詞の学習の可能性を探る。執筆者：太田・スナイダー・エイミー、菊池正人、辻原理絵、増田恭子



言語教育のための質的研究の方法論 質的研究デザインを問直す

八木真奈美編 A5判・250頁・978-4-8234-1318-6 定価2,600円＋税 発行2025.11

言語教育における研究とは何なのか、何のためなのか、誰のための研究なのかという観点から科学性や客観性という概念と研究との結び目を解きほぐし、質的研究の存在論、認識論、価値論、妥当性をあらためて問直す。章ごとの「ワーク」「リフレクシブ・プラクティス」が読者をガイドする。質的研究の「今」と「これから」を知りたい人へのガイドブックであり、必見の書。執筆者：八木真奈美、川上郁雄、小林多寿子、能智正博



認知機能を支える英語学習の提案

濱本秀樹・濱本智子・小阪佳恵著

A5判・168頁・978-4-8234-1356-8 定価 2,200 円＋税 発行 2026. 10 

外国語を学習することがシニアの認知機能を支え、認知症の発症を遅らせる可能性について、近年の研究を踏まえ、医師の助言も得て紹介する。外国語学習やバイリンガリズムが心や身体、社会的な活動とどのように結びつくのかを整理し、高齢者に適した学び方や、身体を動かしながら取り組む英語学習の実践例も示す。地域の英語学習に関わろうとしている方や、介護や認知機能に関心のある方にも役立つ一冊である。

AI を外国語教育で使わない選択肢はもうない

大木充・小田登志子・岩根久編

A5判・192頁・978-4-8234-1308-7 定価 2,600 円＋税 発行 2025. 8

本書は外国語教育に AI の導入を推奨するものだが、そのスタンスは「始めに AI ありき」ではない。指導者は、自分の担当科目で AI を用いる必然性があるのかどうかを問うてみる必要がある。その点を踏まえた上で、本書は、AI を用いることに対して指導者の抱く不安が杞憂にすぎないことを示し、「教育現場での AI との共生・協働」を議論する。執筆者：岩根久、大木充、小田登志子、杉山滉平、田中彰吾、鳥飼玖美子

先生、英語ってなぜそう教えるんですか？

学生の疑問から考える英語科教育法

仲潔・亘理陽一・藤原康弘著

A5判・186頁・978-4-8234-1245-5 定価 2,400 円＋税 発行 2026. 3 

一步進んだ英語教師の養成大学にようこそ！ 本書は、異なるバックグラウンドを持った英語教育の専門家が勤務する架空の大学を舞台にしている。英語教師を目指す学生の質問に「オフィスアワー」で応え、そのポイントを同僚 3 人が意見交換し、学生（＝読者）に還元。英語教師になるための基礎知識を、大学で学んでいるかのように身につけられる画期的な書である。さあ、あなたも一步進んだ英語教師の養成大学に入学し、英語教師への道を歩み始めよう！

英語会話がはずむ！

会話の「やりとり」にフォーカスした指導の理論と実践

岩田祐子・大谷麻美・大塚容子・重光由加・村田泰美著

A5判・272頁・978-4-8234-1256-1 定価 3,200 円＋税 発行 2025. 5

日本人は、なぜ英語会話にうまく参加できないのか？ 本書は、その原因が日・英語のやりとり（インタラクション）の方法の違いにあると指摘する。そして、英語のやりとりの特徴を明らかにし、その指導方法を提案する。授業ですぐに使えるワークシートを紹介し、その効果も実証する。語用論の研究に基づく新しい英語会話の指導方法を提案する一冊。

集団で言葉を学ぶ／集団の言葉を学ぶ

石田喜美編 A5判・224頁・978-4-8234-1250-9 定価 2,800 円＋税 発行 2025. 1

何気ない日常に刮目せよ！ 言葉の学びは、集い、読み書く日々の実践の中にこそある！ 本書では、幼稚園や通信制高校、学校図書館など、様々なフィールドの報告と、社会・文化的アプローチにおける近年の議論から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを二項対立的に捉える見方に疑問を呈する。言葉やリテラシーの学びについて、対話を始めるための礎がここに！ 執筆者：青山征彦、新居池津子、石田喜美、伊藤藤、岡部大介、高岡佑希、宮澤優弥、吉沢夏音、吉永安里

NOW
PRINTING



事実と意見を区別する言語技術 その学び方、教え方を考える

渡辺哲司編 A5判・216頁・978-4-8234-1363-6 定価3,000円＋税 発行2026.8

全国学力テスト(国語)で「引き続き」の課題とされ、OECDのレポートでは今日のデジタル環境における読解の「最も差し迫った側面」とされた、「事実と意見の区別」。その言語技術的側面について理論的にまとめ、それが特に厳しく問われる各界のエキスパートたちとの対談と彼らの論考を収録。言葉を技術として教えることにこだわり、日本の言語教育に貢献する。執筆者：渡辺哲司、島田康行、入部明子、細尾萌子、三森ゆりか、中山迅、羽田徳士、橋本雄、大西直樹、酒井邦嘉、徳野仁子



戦後の国語学者の国語教育論

吉田雅昭著 A5判・264頁・978-4-8234-1321-6 定価6,800円＋税 発行2026.2

日本語を言語学的に研究する日本語学(国語学)と教科教育の視点から国語(日本語)を研究する国語教育学は関連する領域であり、教育制度が大きく変化した戦後期には当時の国語学者から様々な国語教育論が提唱された。本書では、時枝誠記の国語教育論を中心に藤原与一、奥田靖雄、鈴木重幸といった各研究者の理論を取り上げた。日本語研究の立場による国語教育論の内実を論じ、言語教育としての国語教育の在り方について考える。



『續三綱行實圖』研究

澁谷秋著 A5判・282頁・978-4-8234-1325-4 定価13,000円＋税 発行2026.2

本書は、朝鮮時代の長きにわたり刊行された教化書のひとつである『續三綱行實圖』を多角的に解き明かす研究書である。朝鮮書誌学の観点から刻手名や版本の特徴を詳細に分析し、今まで不明確だった現存資料の系統関係を解明し系統図として描いてみせた。また、朝鮮語学の視点から、諺解文のテキスト比較を行い、版ごとのテキストの特徴を記述した。朝鮮書誌学や朝鮮語学だけでなく、歴史言語学、文献学にも有益な一冊。〈日本学術振興会助成刊行物〉



中原中也研究 31

中原中也の会・「中原中也研究」編集委員会・中原中也記念館編

A5判・156頁・978-4-8234-1359-9 定価2,273円＋税 発行2026.8

中原中也の会機関紙。中原中也の会研究集会のパネルディスカッションやトークセッション、エッセイ、投稿論文などを掲載。色褪せない中也文学の魅力を多面的に浮き彫りにし、その尽きせぬ可能性を提示するシリーズ。



『人間失格』の「のです」をどう翻訳するか 日独語対照文学研究

宮内伸子著 四六判・370頁・978-4-8234-1284-4 定価3,600円＋税 発行2025.12

太宰治『人間失格』の全1176文のうち227文が「のです」ないしは「のでした」で終わっている。「のです」は日本語にとって自然で不可欠な表現だが、外国語には訳しにくい。これらはどう翻訳されるのか、それは正しく受け取られているのか。他にも吉本ばななや川端康成、宮部みゆき、三島由紀夫らの作品に加え、俳句の「日本語らしい」表現に注目し、ドイツ語への翻訳の方法を見ることで日本語文学の魅力を再発見する。〈読売新聞・産経新聞書評掲載〉



「文豪とアルケミスト」を本気で考えてみた

梅沢亜由美・大木志門・掛野剛史・山岸郁子編

A5判・312頁・2刷・978-4-8234-1311-7 定価2,700円＋税 発行2025.11

2016年に配信開始され、これまで各界に影響を与えてきた人気ゲーム「文豪とアルケミスト」とそのメディアミックス作品を日本文学・文化研究者がそれぞれの専門分野から本格的に検証した論集。全14章からなり、ゲーム、アニメ、舞台、ノベライズ、朗読、さらにファンの受容、文学館や研究・教育現場との関わりなど多彩な側面からの論考を収録。執筆者：梅沢亜由美、大木志門、掛野剛史、山岸郁子、赤井紀美、今井瞳良、大島志志、影山亮、金子亜由美、構大樹、上牧瀬香、島村輝、芳賀祥子 ■Kindle版も発売中。■たちまち重版！



芥川龍之介あれこれ事典

石割透著 A5判・272頁・978-4-8234-1286-8 定価 3,600 円＋税 発行 2025. 7

芥川龍之介の作品や生活に関わる事項を幾つか選び、それらに対する新しい見解を交えながら、同時代の作家や文化現象にも言及する。それらによって芥川龍之介のみならず、大正文化の一端を明らかにしようとする。筆記道具、照明、署名、発表雑誌、出版社などの執筆状況から収入などに及ぶ小説家としてのありようから、生き物、飲食、場所、学校、文化事象など、極めて斬新で多様な視点から芥川文学を捉えようとする試みである。■Kindle 版も発売中。



五感で読み解く近世文芸

丹羽みさと編 A5判・300頁・978-4-8234-1328-5 定価 4,800 円＋税 発行 2026. 2

文字は二次元の媒体である。しかしながら、それを書いたものが人であるならば、その文章には目、耳、鼻、舌、皮膚という身体器官で感知した要素が含まれていよう。本書は、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚という五つの感覚、すなわち「五感」から、戯作や和歌、俳諧、歌舞伎、色道、国文学、漢学など江戸時代の文芸を捉え直そうとする試みである。執筆者：青山英正、石上阿希、井田太郎、稲葉有祐、大高洋司、川下俊文、神林尚子、小林ふみ子、佐藤温、丹羽みさと、水谷隆之、三ツ松誠、渡辺憲司



遊廓を生きる／遊郭を記憶する 遊郭研究・細見

加藤晴美著 A5判・226頁・978-4-8234-1352-0 定価 2,800 円＋税 発行 2026. 8

売春防止法施行から 70 年近くが経過し、遊廓に関連する遺構や史資料は消滅の危機に瀕している。性売買の場であった遊廓の「記憶」と「記録」を次世代に継承するためには今、何か必要だろうか。本書では、近年急速に発展する遊廓研究の論点を整理し、遊廓の成立と変容、遊女たちの暮らしを通史的に提示するとともに、遊廓調査の手順を示す。遊廓や遊女たちの歴史や実像に関心をもつ方々が、遊廓を「知る」ためのガイドブックである。



小説史の十七世紀論

中嶋隆著 四六判・308頁・978-4-8234-1329-2 定価 4,400 円＋税 発行 2025. 11

従来の近世文学史観を、いかに転換するか。未熟から成熟へ、すなわち古典(前近代文学)が近代文学へ発展する過渡的段階として近世文学を位置づけるという発展型文学史観に替わるパラダイムは何か、を追究する。古典文学作品が印刷メディアによって、人々に読みうるようになった時代、仮名草子・浮世草子などの 17 世紀小説はどのように成立したのか、メディア史的視点を踏まえつつも、西鶴作品などの具体的な作品から小説史自体を総括する。



深川六歌仙評釈

小林孔・佐藤勝明著

四六判・356頁・978-4-8234-1304-9 定価 6,200 円＋税 発行 2025. 10

俳諧とは、本来、俳諧の連歌のことで、近代の用語でいう連句をさす。俳諧の歴史は、連句の付合を読み、人と人、言葉と心の関係をとらえることで、描き直されなければならない。『深川』は、江戸の地名を題名に採用し、永く旅にあった芭蕉が、その当時の俳風を視野に入れて巻いた六つの歌仙を取めている。本書は、その付合を「見込」「趣向」「句作」の三段階で分析した前著『続猿蓑五歌仙評釈』に続く、芭蕉晩年の俳諧の本質に挑む注釈書である。〈令和 8 年度芭蕉祭文部科学大臣賞受賞〉



清末科学小説の想像力 伝統と近代の狭間にある文学

段書暁著 A5判・420頁・978-4-8234-1323-0 定価 9,000 円＋税 発行 2026. 2

太陽系を駆けめぐる靈魂、八卦をかたどった翼を持つ宇宙船……西洋近代の知に接し「三千年未曾有の大変局」に直面した清朝末期の中国人の想像力は、新しい世界を多層的なパノラマとして文学に描き出した。本書は「天」「夢」「鏡」などのキーワードを軸に、清末科学小説における文学と科学、伝統と近代の交錯を分析し、荒唐無稽にも見える物語に潜む思想的課題を掘り起こす。「中国はいかにして近代へと踏み出したか」という重大な問いに迫る。〈日本学術振興会助成刊行物〉



流動と混在の上海文学 都市文化と方言における新たな「地域性」

賈海濤著 A5判・340頁・978-4-8234-1285-1 定価 6,200 円＋税 発行 2025. 3

中国で最大の経済力を誇りつつも、反都市イデオロギーや標準語の普及によって地域文化と方言が危機に瀕する上海。この都市出身の作家や知識人は、どのようにこの現状と向き合っているのか？ 旧租界へのノスタルジア、移住者集団への注目、上海語での創作の試み、これらは文学にどのように映し出されるのか。本書では、方言、文化、移住者といった視点から、上海文学における流動的で混在する「地域性」を探究する。



中国現代文学 26

中国現代文学翻訳会編

A5判・140頁・978-4-8234-1305-6 定価 2,000 円＋税 発行 2025. 9

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第26号。鉄凝「咳する白鳥」(怪我をした白鳥の世話をするようになった男の心の変化を軽妙に描く)、裘山山「影に対して三人となる」(恋人との旅行が仕事でふいになった男と女、境遇が同じ二人の珍道中)、張悅然「大喬小喬」(都会で華やかに暮らす彼女には、人に言えない家族の秘密があった)、本の紹介などを掲載。



英国における近代社会の創成 計読で浮かび上がる言説秩序の歴史

フィル・ウィジングトン著 左古輝人訳

A5判・368頁・978-4-8234-1301-8 定価 5,200 円＋税 発行 2025. 11

16, 17 世紀の英国において市民の社交圏が「社会(ソサエティ)」という語句のもと形成されるプロセスを、分析概念としての「近世」および「社会」と照らしながら描き出す。電子データ化された大量の史料を、統計的に解析(テキストマイニング)し、当時の識字コミュニティ全体のコンセンサスとその変遷、その意味秩序の変化が現実には及ぼした影響を明らかにする。このデジタル技術を用いた手法は近世英国史に限らず、広く人文社会研究に応用できる。原著: Phil Withington (著) *Society in Early Modern England: The Vernacular Origins of Some Powerful Ideas*.



可能性から始める組織開発

デザイン態度とポジティブアプローチの経営学的研究

磯邊美香著 A5判・248頁・978-4-8234-1340-7 定価 5,600 円＋税 発行 2026. 2

本書は、デザイン態度とポジティブアプローチを軸に、組織開発における実践的知見を探究した研究成果をまとめたものである。株式会社ゆめみや株式会社サイバーエージェントの事例を通じて、デザインが組織文化や意思決定に与える影響を分析し、デザイン経営の実践的側面を明らかにする。デザインと組織開発を統合的に捉えるアプローチを提案し、企業における変革プロセスを具体的に示す。実務者にも研究者にも有意義な内容を提供している。



これから刊行する書籍のご案内

ひつじ研究叢書(言語編)

第94巻 日本語情態修飾関係の研究

矢澤真人著 A5判・978-4-89476-544-3

日本語の情態副詞に関する研究。3部からなる。第1部は副詞研究史。明治期から現代まで、副詞や連用修飾関係の研究が何を目的としてどのように行われたかを概観する。第2部は情態修飾関係分類論。語順、修飾の奥行き、アスペクト的意味への制限と言った基準から、情態修飾関係の機能的な分類を試みる。第3部は日本語順論。格成分と修飾成分の相互語順の検討を通して、文の階層的構造を明らかにする。

第174巻 推論と証拠性

認知構造の日中対照研究

呉蘭著 A5判・978-4-8234-1038-3

日中証拠性表現を一般言語学的に位置づけ、認知意味論の観点から、各表現の共通点と相違点を明確に詳述する。また証拠性表現の各用法の関連性も統一的・包括的に説明し、さらに隣接する認識モダリティ表現との相違や共起制限も通言語的な理由で説明する。そして、認知類型論の観点から、推論過程全体を表示する傾向がある日本語タイプと、推論結果の焦点のみを表すことが多い中国語タイプに分類し、これを他の言語にも適用できると予測する。

第220巻 グラウンディング辞としての「ハ・ガ」

島映子著 A5判・978-4-8234-1368-1

言語学先進国である欧米の言語と日本語は、多くの点で異なっている。この違いの一つには、ラネカーが「グラウンド」と言った「言語構築の基点」の取り方が違うことに起因すると本書は考える。そして、その「グラウンド(日本語においては視座)」と「言語表現で描かれた事態」の関係を示す「グラウンディング辞」として助詞「ハ・ガ」を見ることで、長年議論されてきた「ハ・ガ」の使い分けに有効な説明が可能であると主張する。

第221巻 日琉諸語からみた疑問文の変化と変容

衣畑智秀著

A5判・978-4-8234-1380-3 定価7,200円＋税

疑問文は、上代から現代まで、日本中央語においてどのように変化したか。選言句や不定句は、疑問文からいつごろどのように派生したか。それらの新しい変化と、古代日本語で使われていた係り結びはどのような関係にあるのか。現代でも係り結びが使われる琉球諸語では、疑問文の新しい変化はどのように表れているのか。それらは一般言語学的にどのように捉えられるのか。文献やコーパス、フィールドワークを駆使して、その諸問題に迫る。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

第222巻 大阪と東京の雑談における方言学的研究

会話分析から方言学へのアプローチ

太田有紀著

A5判・978-4-8234-1381-0 定価7,400円＋税

話しことばの研究が本格的に行われるようになり三四半世紀が経つが、方言学における会話研究は未だ十分になされていない。本書は「あいづち」を中心に、大阪と東京の雑談に見られた会話の現象について分析を行う。これまであまり研究対象とされてこなかった若年層でも地域的な相違が見られること、さらに、相互行為の分析に用いられる会話分析という手法が、話しことばの地域性を明らかにするうえでも有用であることを示す。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

第223巻 ウズベク語における従属節の構造と機能

日高晋介著

A5判・978-4-8234-1382-7 定価10,000円＋税

日本語と同様に非定形動詞(形動詞・動名詞・副動詞)を用いて多様な従属節を形成するウズベク語を対象に、コーパスと母語話者調査で収集した豊富な実例をもとに、従属節における非定形動詞の機能を総合的に記述する。従属節外部との結合関係と節内部の構造という二つの観点から、従来別々に論じられてきた非定形動詞を統一的に捉え直すことで、その機能体系を明らかにし、他言語との類型論的対照に資する知見を提供する。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

第224巻 言語理解における共感と視点

認知言語学と心理言語学の統合的アプローチ

田中悠介著

A5判・978-4-8234-1383-4 定価7,000円＋税

言葉を理解するとき、私たちはどこから事態を捉えるのだろうか。本書は、認知言語学における共感と視点の議論を、心理言語学におけるメンタル・シミュレーション研究と架橋する。5つの心理実験を通して、他者の立場に身を置く「自己投入」と自己を外側から捉える「自己分裂」が言語理解の際に生じる条件を実証的に検討する。また、メンタル・シミュレーションにおける視点取得研究の知見を踏まえ、認知言語学の視点論を再考する。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

講座 言語研究の革新と継承 [全8巻]

3 語用論

林宅男編 A5判・978-4-89476-669-3

幅広い語用論研究の分野を広くカバーし、現代の語用論研究を見通せることができる一冊。執筆者：高見健一、井出祥子、加藤重広、金水敏、龍城正明、泉子・K・メイナード、松本善子、林礼子、小野寺典子、益岡隆志、西山佑司、澤田治美、山口治彦、野田尚史、庵功雄、牧野成一、岩崎勝一、内田聖二

53 日本語教育における自己表現のための語彙学習

理論・実態・実践

李羽喆著 A5判・978-4-8234-1334-6

日本語学習者は、語彙を知っていても実際には使えない。その壁をいかに乗り越えるのか。本書は、暗記主義からの転換を課題とし、語彙を「知っている」から「使いこなす」へと発展させるための教育的枠組みを、理論的検討・実態調査・実践研究の三層から検証するものである。学習者の実態と学習観を分析し、自己表現をいかに支え得るのかを問い直す。「自由に使いたくなる語彙学習」とは何か。日本語教育における語彙教育の新たな可能性を提示する。

54 概念連結に基づく韓国語類義語教育 (仮)

魏ヘンニム著 A5判・978-4-8234-1369-8

韓国語の類義語は、学習者の頭の中でどのようにつながっているのか。本書は、認知主義とコネクショニズムの観点から「概念連結」という新たな枠組みを提示する。韓国語母語話者と日本語圏上級学習者を対象とした単語連想調査と個別面接から、その連結の様相とメカニズムを明らかにし、学習者の語彙知識を有機的に結びつける類義語教育の内容体系を提案する。従来の類義語教育を根本から問い直す研究。

シリーズ日本語を知る・楽しむ

3 季節のつめ合わせ (仮)

古代文学編

福田孝著 四六判・978-4-8234-1152-6

奈良平安期の有名12作品の散詩文集。季節の風物が出てくる原文を読みながら各作品の特徴をわかりやすく説明する。古めかしい衣装をまとっているかもしれない作品をいまの作品のように身近に感じて自身で手に取って楽しく読むための案内書でもある。春『土左日記』『伊勢物語』『うつほ物語』『古事記』夏『和泉式部日記』『枕草子』秋『源氏物語』『かげろふ日記』『竹取物語』『万葉集』冬『おちくぼ物語』『更級日記』。

シリーズ 言語・コミュニケーション研究の地平[全3巻] (佐藤晴・前川喜久雄・坂井田瑠衣監修)

自己と対峙する

吉川正人・佐治伸郎・土屋智行編

A5判・978-4-8234-1125-0

LC (Language and Communication) 研究会による研究成果をまとめたシリーズ。本書では、言語行動だけでなく、音韻や構文など言語知識の内実、言語の構造的側面や規則性に関する探求も含め、ヒトの内的プロセスに目を向けることを「自己と対峙する」ことと捉えた。様々な分野にまたがるパラエティ豊かな論考を収録。執筆者：浅原正幸、石本祐一、加藤祥、佐治伸郎、全美柱、田島弥生、土屋智行、寺岡文博、堀内ふみ野、前川喜久雄、吉川正人

他者と対峙する

有本泰子・坂井田瑠衣・岡田将吾編

A5判・978-4-8234-1126-7

LC (Language and Communication) 研究会による研究成果をまとめたシリーズ。他者とのコミュニケーションにおいては、感情状態、非言語的要素、背景にある社会的関係といった様々な要素が絡み合う。本書には多様なアプローチからの論考を収録し、「人はいかにして他者と対峙するのか」という根源的な問いに迫る。執筆者：天谷晴香、有本泰子、居間友里子、榎本美香、岡田将吾、岡本雅史、小室允人、坂井田瑠衣、城綾実、伝康晴、坊農真弓、山本真理

シリーズ フィールドインタラクション分析 (高梨克也監修)

2 鮎屋で握りを注文する (仮)

平本毅編 A5判・978-4-89476-732-4

この巻では、江戸前鮎屋にフィールドを求め、親方をはじめとする店員と客とのインタラクションを分析する。和食のユネスコ無形文化遺産登録もあって、日本の食文化が世界的に注目を集めているが、日本の食文化の少なくとも一部は、外食サービスの現場で形成されるもののはずである。鮎屋の注文場面の分析を通じて、独特なインタラクションの形式が、そうした文化をどう生み出しているかを論じる。執筆者：黒嶋智美、平本毅、山内裕

ひつじ研究叢書 (文学編)

21 活字との密約

江戸川乱歩における雑誌偏愛

石川巧著 A5判・978-4-8234-1364-3

少年時代に「活字との密約」を交わした江戸川乱歩は、その作家的生涯を通じて絶えず新しい雑誌を企画、編集、発行することに意欲を燃やし続けた。乱歩にとっての雑誌は「幻影の国への架け橋」であると同時に、いつも傍らにいてくれる恋人だった。本書は、乱歩が生涯に関わった雑誌をタイトルごとに検証し、戦争と言論弾圧の時代を生きたひとりの作家の営みから1920年代以降の出版文化史を捉え直す試みである。

23 「独創性」を問い直す (仮)

永井荷風の Originalité

児島春奈著 A5判・978-4-8234-1390-2

永井荷風の作品は、フランスから江戸へ、文明批評から江戸趣味へという枠組みで解釈されてきた。本書は Originalité という概念をキーワードに、荷風が「西洋思想」の単なる移入にとどまらず、作品の中でフランスの概念を創造的に翻訳していく様相を明らかにする。一人の作家が流行を前に、個の身体感覚を通して独自の視点を模索した過程を問うことにより、近代以降の文学者が直面した模倣と創造をめぐる問題に、新たな視点を提示する。

24 文学作品はいかに表現／読解されるか

西田谷洋著 A5判・978-4-8234-1393-3

文学とは、言葉の構築 (レトリック) と破壊・刷新 (テロル) の緊張関係の場である。本書は認知物語論・認知言語学・語用

論等を用い、両者の異化機能を認め合うハイブリッドの視座を提唱する。Ⅰで物語論の更新と読解、Ⅱで言語学の読解への応用、Ⅲで意味生成のメカニズム、Ⅳで批判的・社会的力学を通して、芥川龍之介・川端康成・村上春樹・山内マリコらの文学作品を精読し、理論と実践の往還により文学研究の更新を目指す。

「ぬらりひょん」な日本語文法を目指して

「コミュニケーション」と「文法」を捉え直す

小林ミナ・船橋瑞貴編 A5判・978-4-8234-1034-5

「文法」とは、唯一絶対の固定的なシステムではなく、個別具体の状況に寄り添いながら「言語」と「言語でないもの」が複雑に絡み合って存在する実態である。浮き世の有様を丹念に観察するとどのような「文法」が描き出せるのか。変幻自在な掴みどころのない妖怪とされる「ぬらりひょん」の名を付し、新しい「文法」のあり方を示す画期的な1冊。執筆者：太田亨、金田純平、衣川隆生、クレア マリィ、小林ミナ、定延利之、滝浦真人、船橋瑞貴

話し言葉の多様性 (仮)

山崎誠・柏野和佳子編 A5判・978-4-8234-1086-4

話し言葉のコーパスが充実するにつれ、話者の属性、会話の場面や目的などにより、話し言葉が多様な姿を見せることが分かってきた。本書は、国立国語研究所の「日本語日常会話コーパス (CEJC)」のプロジェクトで開催したシンポジウムでの発表をもとに、音韻、語彙、文法、文体の諸側面から話し言葉の多様性を明らかにしようとするものである。執筆者：山崎誠、小磯花絵、石井久美子、入江さやか、河野礼央、高崎みどり、村井源、柏野和佳子、丸山直子、金青華、茂木俊伸、飯間浩明

日本語おもしろ事典

高山善行・中井精一・森山卓郎著

A5判・978-4-8234-1168-7

私たちが話したり、書いたり読んだりしている日本語の面白さを考える。現代語の地域の言語から、文法や日本語の歴史などのことばをめぐる意外なありようを考えていく。素朴な疑問から、ちょっと変わった問いかけやどきとする不思議ないいかたなどまで、100ほどの項目で、コラムもあり、ことばの面白さを感じることができる本になっている。

コーパスによる日本語史研究 現代編

田中牧郎・小木曾智信編 A5判・978-4-8234-1355-1

日本語史研究は、近代語までにとどまりがちだったが、現代語も対象に加えるべきである。明治・大正期までの『日本語歴史コーパス』に、『昭和・平成書き言葉コーパス』をつなげるなどとして、コーパスによる現代語史研究が可能になった。この方面の研究を俯瞰した展望1編、研究を展開した論文11編、コーパス利用の勘所を記した解説4編からなる。執筆者：田中牧郎、近藤明日子、高橋雄太、金愛蘭、永澤済、ヤロシュ島田むつみ、菅野倫匡、小椋秀樹、松田謙次郎、河内昭浩、小町守、小木曾智信、間瀬洋子

日本語文法研究の舞台裏 (仮)

入門と実践の間をつなぐ

三好伸芳編者代表 阿久澤弘陽・井戸美里・井原駿・大江元貴・鈴木彩香編 A5判・978-4-8234-1365-0

言語研究を実践する際には、「分類」や「反例の提示」などの避けては通れないタスクが存在する。この種のタスクは研究上必須のものといえるが、入門書や論文集で解説されることはあまり多くない。本書では、「日本語文法研究」を念頭にそのようなタスクを可視化するとともに、それぞれのタスクを実践する際にどのような困難が生じるか、どのように向き合えばよいかを考えていく。執筆者：阿久澤弘陽、井戸美里、井原駿、氏家啓吾、大江元貴、大川孔明、北崎勇帆、久保蘭愛、小林亮一郎、鈴木彩香、辻本桜介、野間純平、三好伸芳、山田彬亮

日韓両語の「不完全な文」

形式と意味と機能、そして変化

生越直樹編

A5判・978-4-8234-1376-6 定価 7,000 円＋税

本書は日本語と韓国語の「不完全な文」を、述語の省略と動詞・名詞志向性、人称詞と名詞修飾節、名詞止め文、コンピュータ構造、欠落を補う談話戦略、SNSの言語、文法化などの観点から対照分析したものである。類似しつつも異なる両言語の「不完全さ」の諸相を通して、「言語化しないこと」を単なる欠落ではなく、言語体系を支える仕組みとして捉え直す。執筆者：朴鎭浩、堀江薫、李康元、李載賢、生越直樹、金智賢、尹盛熙、新井保裕、河崎啓剛〈日本学術振興会助成予定刊行〉

バルト・スラヴ語アクセント論 (仮)

序説と基礎編

柳沢民雄著 A5判・978-4-8234-1354-4

バルト・スラヴ語の歴史アクセント論は印欧語歴史言語学のなかで最も複雑な分野の一つである。これは19世紀以来、ソシュールをはじめとする研究者達により研究されてきた。特に20世紀後半にその解明に向け大きく前進した。本書はこれらを踏まえ、序説でこれに係わる重要な12の事項を、基礎編でバルト・スラヴ語アクセント史の基礎を議論している。さらに本書は、典型的アクセント研究への橋渡しをすることを試みた。

近現代童話にとって会話文とは何か

半沢幹一著 A5判・978-4-8234-1375-9

『古典文学にとって会話文とは何か』および『近代小説にとって会話文とは何か』に続く、「会話文とは何か」シリーズの第三弾。本書は、会話文が多いというイメージがある童話を取り上げる。はたして実際にはどうだろうか。『日本児童文学大系』(全30巻)に収録されている、千編近くの童話作品を対象として、それらの全体的な様相と、著名な作家・作品の特徴、さらには近代以前の昔話や一般の小説との違いについても言及する。

レトリック展開

瀬戸賢一著 A5判・978-4-8234-1233-2

第1巻『レトリック探究』の基礎篇に続く応用篇である。応用分野は二つ。ひとつはレトリックの記号論であり、記号論を再生させるのにレトリックを土台とする。もうひとつはレトリックと文法の関係をとらえ直すこと。認知言語学には隔々までレトリックの視線が浸透することを多くの例で実証する。レトリックと認知文法の案内書であり、叙述は丁寧でわかりやすい。研究のヒント満載で、研究書でありながら入門書でもある。

日本語文法史研究 8

青木博史・小柳智一・吉田永弘編

A5判・978-4-8234-1385-8

本書は、日本語文法史研究の現在地を示す、隔年刊行の論文集の第8号である。よく知られたテーマであっても様々なアプローチがあることをあらためて知ることができ、文法史研究のさらなる発展を予感させるものとなっている。研究論文11本に加え、テーマ解説と名著の紹介、直近2年分の研究文献目録を取っている。執筆者：青木博史、市村太郎、岡崎友子、川島拓馬、菊池そのみ、黒川茉莉、小柳智一、高山善行、竹内史郎、深津周太、福田嘉一郎、宮地朝子、吉田永弘

日本語語用論フォーラム 4

加藤重広・滝浦真人編 A5判・978-4-8234-1362-9

日本語研究と語用論研究が通い合う広場（フォーラム）となることを目指して編まれたシリーズの第4巻。「語用論」の研究は、さらにその研究の地平を拡大させ、多様な境界領域や接続領域を現出させている。本書は、第一線で活躍するベテラン研究者や中堅の研究者と新進気鋭の若手研究者の論考を集めた論文集で、語用論とつながるさまざまな研究に重要な示唆を与えるものになっている。執筆者：泉大輔、大槻知世、数納風香、加藤重広、木山幸子、金水敏、ツオイ・エカテリーナ、西田光一、藤平真由美、八木橋宏勇

関連性理論の新機軸 (仮)

認知語用論からみたコミュニケーション

大津隆広・黒川尚彦・後藤リサ・笹本涼子編

A5判・978-4-8234-1366-7

関連性理論は言語および非言語によるコミュニケーション現象を認知的に説明する語用理論である。関連性理論とはどのような理論なのか、関連性理論の射程はどこまで及ぶのか、それをどのように説明できるのか。語用論研究者や関連性理論を学ぼうとする大学学部生や大学院生に向けて理論の応用可能性を示した関連性理論研究者による一冊。執筆者：井門亮、内田聖二、大津隆広、岡田聡宏、黒川尚彦、後藤リサ、笹本涼子、塩田英子、瀬楽亨、武内道子、中井延美、長辻幸、西川眞由美、西山佑司、東森勲、松井智子、峯島宏次、盛田有貴、吉村あき子

武芸伝書の計量テキスト分析への挑戦 (仮)

小林勝法編 A5判・978-4-8234-1374-2

『五輪書』のような武術を後世に伝える武芸伝書は、武術修行

を通じた人間形成や死生観を伝える貴重な史料である。約2万5千点も現存しており、これら大量の史料の内容分析には計量テキスト分析が有効だが、古典籍の分析には固有の研究方法が求められる。本書では各種の研究事例に加え、必要な手法を整理・解説し、武道研究の新領域を開拓する。執筆者：小林勝法、塚越柚季、太田順康、佐藤皓也、劉暢

歴史的計読の提唱

言説秩序を分析する

左古輝人編

A5判・978-4-8234-1377-3 定価 7,400 円＋税

近代日本人の幸福観、近世英国の隷属概念、現代日本のフェミニズムなど多様なテーマについて、計読(テキストマイニング)を行い、社会史・文化史への計読の有用性を明らかにする。また、こんにち計読研究者にとって頭痛の種となっている、新聞データベースへの計読適用をめぐるトラブルについて、解決の方向性を探り、計読研究の最前線と未来を提示する。執筆者：左古輝人、Phil Withington、鈴木努、小島伸之、明戸隆浩、樋熊亜衣、塩谷昌之、河野静香〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

メディアとことば 6

特集：有事とメディア—戦争・災害・疫病—

佐藤彰・岡本能里子編

A5判・978-4-8234-1347-6

本書は、有事を取り巻くメディアに焦点を当て、今まさに起こっている戦争・災害・疫病を取り上げながら、世界に蔓延する社会不安に人々がどう反応し、それがメディアにどう再現されて再生産を招くのかを解明する。本書の各章では、さまざまなメディア媒体が実際にどのように機能しているのか、メディアの有り様を記述する。各章にキーワードのコラム付き。

ガイドブック方言研究 改訂版

小林隆・篠崎晃一・中西太郎編

A5判・978-4-8234-1316-2

本書は方言研究の教科書として好評を博してきた『ガイドブック方言研究』の改訂版である。類書に見られない本書の特色は、方言研究の基礎的な部分を重点的に解説するだけにとどまらず、方言研究を志す際の「テーマの設定」「調査の方法」「分析の方法」など具体的な研究の手順を示した点にある。そうした特色を大切にしつつ、「言語行動・談話」の章を新設するなど、新たな研究動向に対応すべく全体的な改訂を行ったものである。執筆者：井上優、大西拓一郎、木部暢子、小林隆、佐藤和之、篠崎晃一、高橋顕志、中西太郎、西尾純二、半沢康

ゼロからはじめる数理的言語研究入門 (仮)

近藤泰弘・小木曾智信・小磯花絵著

A5判・978-4-8234-1001-7

これからの言語学は、数理的な発想やそれを実現する工学的分析プログラムやツールを研究に使うことが重要になると思われる。しかしながら、日本の大学のこれまでの言語研究者を育成するプログラムには、これらを教える仕組みが十分には整っていなかった。関心を持って、初学者にはなかなか

手が出しにくい状況が続いている。これからの言語学を担う若手の言語研究者たちに数理的な言語研究の方法をデモンストラレーションするワークショップを開催した。その内容の書籍化。

改訂版 会話分析の基礎

高木智世・細田由利・森田著
A5判・978-4-8234-1350-6

会話分析は、日常会話の詳細な観察を通して社会的相互行為の秩序を解明する学問分野である。本書は、その視点と分析概念を豊富な事例とともにわかりやすく解説した入門書として広く読まれてきた。改訂版では、解説をさらに正確かつ明快にするとともに、近年注目を集めるマルチモダリティについても、相互行為が実に多様な資源から組織されていることを示す分析例を加筆した。

探究力を育てるアカデミック・リテラシーズ (仮)

協働で学ぶ言語技能の統合的運用
加納なおみ編 B5判・978-4-8234-1357-5

AI時代に求められる思考力を、言語技能を通じて強化する大学初年次教育向けテキスト。「自分で問いを立てる」ことを中核に、レポート作成・プレゼンテーション、デジタルに支えられた協働学習を通じて思考の深化を目指す。対話を軸に、問いとの整合性を踏まえて思考を整理、明晰に説明する力を養い、21世紀型スキルを体系的に育む。執筆者：加納なおみ、成田信子、赤木美香、吉野舞起子、鶴橋辰成、佐藤有貴、嶋田龍司、坂本薫

このままでいいのか 日本の英語教育

中島平三英語教育講演集
中島平三著 A5判・978-4-8234-1384-1

コミュニケーション中心の英語教育は、教育基本法の主目的である「人格の完成」に資するものであろうか。4技能など既存の知識や技能(「外在的知識」)の模倣や記憶よりも、新しい知識を獲得したり創造したりする能力(「内在的知識」)を育むことの方が、新時代の創造的人材を育てる上で重要だ。英語の具体的項目を例として挙げながら、人間の本性に信頼を置く「理性主義教育観」に立った英語教育論を鋭く説く講演の集大成。

第2 言語習得メカニズムの研究と英語教育

縦断的英語発話データ KOIKE Corpus の分析を通して
小池生夫・投野由紀夫・蒲原順子著
A5判・978-4-8234-1389-6

本書は著者の小池生夫氏が、2年半に及ぶ米国在住期間中に収集した3人の子どもの発話データを20年越しの整備をへてKOIKE Corpusとして公開する、その全容を紹介するものである。Part 1は本コーパスの背景とデータの概要、Part 2では本コーパスによる語彙・文法の記述的研究、Part 3では統計モデリングを駆使した研究事例を紹介し、子ども達の環境、言語接触の質や量、個人差などの要因を整理しながら、日本の英語教育への示唆を考察する。

使える語彙を増やすアクティブ単語帳 (仮)

李羽喆著 A5判・978-4-8234-1370-4

語彙を「知っている」から「使いこなす」へと育てるためのヒントを示しながら、読者自身が空白に書き込み、試し、振り返り、実際に使ってみることができる単語学習用ノート。レベル別、漢字圏・非漢字圏別のシートを備え、学習者にも現場の教師にも、そのまま使いやすい形でまとめた。同著者の『日本語教育における自己表現のための語彙学習』が理論を考える本であるのに対し、本書はその考えを実際の学習活動に移すための実践編である。

臨床のことばの心理学

会話がなぜ人を癒すのか
森岡正芳・茂呂雄二編 A5判・978-4-8234-1360-5

臨床心理学や臨床社会学の実践にとって不可欠なのが、沈黙や身振りを含む広義のことばである。本書は、支援や癒しのための臨床の場で、語られ、交わされ、聴かれ、時に批判的に吟味されることばについての論文集。対話主義、行動主義、リフレクティング、ナラティブ、パフォーマンスなどの様々な理論背景から、多面的なことばを論じている。執筆者：安達映子、高松里、田崎みどり、田島充士、武藤崇、村澤和多里、森岡正芳、茂呂雄二、矢原隆行

コラボレーションの言語心理学

茂呂雄二・伊藤崇・城間祥子編
A5判・978-4-8234-1392-6

人々の行為の意味を理解するには、行為とともに現れる談話・会話・対話に注目する必要がある。生きた言葉による実践を記述・分析する方法として、エスノグラフィー、言説分析、談話分析、会話分析、相互行為分析などを取り上げる。これらの方法がなぜ必要なのか、その背後にある見方とは。著者達の研究例に基づきながら論じる新しい方法の書。執筆者：石井宏典、伊藤崇、北本遼太、小松孝至、坂井田瑠衣、城間祥子、戸江哲理、松嶋秀明、守下奈美子、茂呂雄二

ここからはじまる文章・文体・談話

身近な文章・談話の「ことば」のありかた
高崎みどり・立川和美・星野祐子著
A5判・978-4-8234-1388-9

古典及び近現代の文学作品、社説、コラム、広告、LINE、さらにはCEJCの日常会話など、幅広い材料やテーマを取り上げ、それらが持つ「ことば」の特徴を考えるために必要な分析手法や先行研究を紹介する。特に「文体」では、AI時代にあつてこそ際立つ、作家たちの個性ある日本語の美と技のメカニズムを解明する。

表現からみる新しい英語史 (仮)

語・フレーズ・文体の歴史
谷明信著 A5判・978-4-8234-1391-9

beginとcommenceはどちらも「始める」を意味するが、使われる場面は違う。英語ではこうした類義語が歴史的に積み重なって層となっている。本書は文法よりも語・フレーズ・文体に焦点を当て、借用語による語彙の多層化、易しい語と難しい語の分離、フレーズの発達などをたどる。また、話し

言葉か書き言葉か、小説か論文などの違いにより、英語の変わり方は同じではない。本書はこの点にも目を向けた英語史の概説書である。

日本語 巡り合い 4

佐々木瑞枝監修 『巡り合い』編集委員会執筆
B5判・978-4-8234-1219-6

「日本語教育参照枠」の示す5つの言語活動を意識して作成された日本語教科書。導入部にマンガを用い、5つの言語活動を意識した読解文とタスクで構成。話題は「産業構造の変化」「AI」など複雑なものから、「テレワーク」「交通ルール」など身近なものまで幅広く選択。学校・職場や社会生活で自律的に日本語でやり取りできることを目指す。従来のような「文型・語彙」指導の枠に縛られない教科書。(中上級 JLPT N2、CEFR B1～B2対応)★音源はネットで提供

読書科学ハンドブック

日本読書学会編 A5判・978-4-8234-1367-4

近年、「読書」にまつわる環境は大きく変化した。日本読書学会設立70周年の企画として、どのように「読書」を研究するのか、読み手やメディアの多様化にどのように対処するのか、社会は「読書」に何を求めているのか、図書館などの「読書」空間の広がりや何をもちたらずのか、それらを踏まえた教育実践へのヒントを集積。「これからの10年」の読書に関心ある人にとって必携の一冊である。巻末には「読書に関する年表」「重要事項用語一覧」も掲載。

ポストコロニアル時代の人文学と東アジア文化圏 3

人文学の明日を見つめて

世界はどこへ向かうのか？
千野拓政・草原真知子編 A5判・978-4-89476-980-9

文系・理系の垣根を越えて広がる人文学。今、その最先端で何が起きているのか。それは多様化する世界の姿を捉えられるのか。俊英が新たな地平を切り開く。あわせてアジアで人気を博しながら欧米では反響のなかったアニメ『君の名は。』を世界の視点から語る。執筆者：エルキ・フータモ、東浩紀、ドミニク・チェン、ミツヨ・ワダ・マルシアーノほか

「文学研究」から「文化研究」へ (仮)

中国研究における挑戦の軌跡
千野拓政編 A5判・978-4-8234-1386-5

人文学は根本的な変革を迫られている。中国の近現代文学においても、マンガ・アニメ・SF・映画・ゲーム・SNSなど、ありとあらゆる文化領域が研究対象になりつつある。国際的な協力を通じてそのフロンティアを切り開いてきたグループは、どのような地平にたどり着いたのか。成果の真髄と軌跡が明かされる。執筆者：王曉明、王宏志、周志強、羅小茗、張文菁、池田智恵、楊駿驍、段書曉、郭濟飛、張宇博、劉茜

中国研究のフロンティアを支えて (仮)

中国現代文化研究所の軌跡
中国現代文化研究所編 A5判・978-4-8234-1387-2

コロナ禍の後、激変の渦に巻き込まれている東アジアをどう捉えればよいのか？ 中国・台湾・韓国・日本の気鋭の論者

が一同に会して語り尽くす。中国の変化を見守り続け、研究の最前線を支えてきた研究所の最新の成果とその軌跡がいま明らかになる。執筆者：王曉明、王智明、朴姿映、千野拓政、鈴木将久、楊駿驍、齊藤泰治、呉念聖

アニメーションとジェンダー

石田美紀・米村みゆき編 A5判・978-4-8234-1361-2

国の内外で注目を集め続ける日本のアニメーション。物語、キャラクター表現、ジャンル、メディアミックスを始め、アニメーションというメディアを作り上げるあらゆる側面で、ジェンダーは大きな影響を与えている。多彩なアニメーション作品を分析しながら、両者の関係を平易に解説。アニメーション研究の入門書であると同時に、アニメーション批評の実践書である。執筆者：石田美紀、大澤幸、川口茂雄、河野真太郎、清水知子、須川亜紀子、程由小斐、平野泉、宮本明子、米村みゆき

東アジアの民話教材を巡る教育文化史研究

黒川麻実著
A5判・978-4-8234-1379-7 定価 9,800 円＋税

「三年とうげ」はなぜ二度にわたって海を渡ったのか、「うさぎのさいばん」ではいつ兎が裁判官として定着したのか、「スーホの白い馬」はいかにしてモンゴルのお話として日本の教室で読み継がれてきたのか——三つの問いを軸に、小学校国語教科書の東アジア民話教材を教育文化史として読み解き、アダプテーションを重ねてきた民話のこれまでとこれからを展望する。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

香港映画と新たな「香港人」

新世代監督が描くアイデンティティ
張宇博著
A5判・978-4-8234-1378-0 定価 6,500 円＋税

「香港人」とは誰のことか。カンフーやノワールの「黄金期」で語られがちな香港映画だが、その輪郭はいま、静かに、しかし大胆に描き直されている。担い手は2010年代以降に登場した新世代監督たちである。その作品群には、南アジア系住民を「香港人」として迎え入れながら、中国本土出身者を締め出すという、開放と排除の同時進行が刻まれている。本書はこのせめぎ合いを手がかりに、変化の渦中にある香港のアイデンティティを読み解く。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

須原屋市兵衛 (仮)

近代への架け橋とならんとした出版者
松田泰代著 A5判・978-4-8234-1287-5

須原屋市兵衛は、およそ宝暦十(1760)年から文政六(1823)年まで、約63年間活動していた書肆(出版社)。初代から二代目、そして三代目へ事業が引き継がれた。同時代に活躍した葛屋重三郎とは「物の本屋」として先達であり、商売としてはライバルでもあった。市兵衛は文芸から科学・医学まで幅広く出版を手がけ、その出版物の意義は大きい。とりわけ『解体新書』の出版は有名である。近代への架け橋へのひとつの基石。市兵衛の「物の本屋」としての出版点数から出版活動を解説。従来の寛政の改革による出版物取り締まりのなかで重過料を課せられたことにより衰退したという説を覆す。

欧文タイポグラフィへの招待 (仮)

河野三男・杉下城司著 A5 判・978-4-89476-963-2

「英語文書の種類と基本形式」について、表記の慣例と共に書籍の構成に即して解説しているタイポグラフィ(活字の扱い方)入門書。英米の定評あるスタイル・マニュアルを範としつつ、文科系の英語文を誤解なく読みやすく「活字で書く」方法を紹介。エディトリアル・デザインなど雑誌の組版や広告類にも適用する、デザインの要素の濃いディスプレイ用組版と特殊な組版も新たな章を設けて解説。注や参考文献で専門的情報を追加提供。〈書籍原稿の執筆にも有益。〉

みる・よむ・きく 南の島ことば絵本

神さまとムッカラの鳥(かんとぅ むっからぬ とぅるい)

花城正美・山本史・半嶺まどか・藤田ラウンド幸世
A4 判・978-4-8234-1341-4 定価 2,800 円＋税

小浜島に伝わる昔話。小浜語の朗読音声と、日本語・英語訳、詳しいことばの解説付。小浜島の大岳と呼ばれる小山に降り立った神さまのもとに集まってきた個性豊かな六羽の鳥たち。神さまは、鳥たちの鳴き声を聞いて、それぞれの仕事を与えていく。六羽の鳥たちは、神さまからどんな役割を与えられたのか。物語に出てくる鳥たちの鳴き声や神さまの振る舞いから、今も続く小浜島のおおらかな生活と自然の近さが伝わってくる。総ルビ。

テキストのご案内

	日本語学	英語学	言語学一般
より専門的 ↑	ガイドブック日本語文法史 ガイドブック方言研究 改訂版 🍎 ガイドブック方言研究 ガイドブック文章・談話 ガイドブック日本語史 ガイドブック日本語史調査法 改訂版 日本語要説 基礎日本語学 第2版 日本語の文法 新ここからはじまる日本語学 ここからはじまる日本語文法 ここからはじまる文章・文体・談話 🍎 ベーシック現代の日本語学 学びのエクササイズ日本語文法	Meaning and the English Verb Language Change ベーシック英語構文文法 ファンダメンタル音声学 ファンダメンタル英語学演習 ベーシック新しい英語学概論 表現からみる新しい英語史 🍎 ベーシック英語史 ファンダメンタル英語学 改訂版 ファンダメンタル英語史 改訂版 ファンダメンタル英文法	ベーシック学習者コーパス研究 🍎 ベーシック応用言語学 第2版 対照理論言語学を始めよう 音声を「目」で見る音声学入門 🍎 改訂版 社会言語学 言語人類学への招待 フィールドワークではじめる言語学 ファンダメンタル認知言語学 物語の言語学 概説レトリック 語の文法へのいざない ベーシック形態論 問題を通して学ぶ 生成文法 ベーシック生成文法 ベーシック語彙意味論 ベーシックコーパス言語学 第2版 学びのエクササイズことばの科学 An Introduction to Cognitive Grammar 学びのエクササイズ認知言語学 学びのエクササイズレトリック 探検！ことばの世界
	スタディスキル	語学教材	文学・その他
より専門的 ↑	人文学系学生のためのはじめての量的研究・質的研究 🍎 Writing for Academic Purposes 英語科学論文をどう書くか これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版 大学で学ぶアカデミック・ライティングの教科書 ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション プロセスで学ぶ大学生のレポート・論文作成 目指せ！ 書ける大学生 🍎 グループワークで日本語表現力アップ 協働で学ぶクリティカル・リーディング アカデミックプレゼンテーション入門 失敗から学ぶ大学生のレポート作成法 第2版 型から学ぶ日本語練習帳 はじめよう、ロジカル・ライティング 日本語を書くトレーニング 日本語を話すトレーニング	ひとりでも学べる日本語の発音 「大学生」になるための日本語 中級からの人とながなる日本語会話 そのまんまの日本語 日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書 出会い 日本語 巡り合い 🍎 さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳 脱文法 100トピック実践英語トレーニング 音声認識で学べる英語発音学習帳 日本語がいっぱい 新 ネット時代の中国語	ここからはじまる国語教室 文学研究の扉をひらく 昭和の文学を読む 学びのエクササイズ文学理論 テキスト分析入門 新しい言語心理学 改訂版 グローバル社会のコミュニケーション学入門 文学理論入門 卒業論文マニュアル 日本近現代文学編 ここからはじまる道德教育 日本近現代文学史への招待 小説を読むための、そして小説を書くための小説集 学びのエクササイズ子どもの発達とことば
より入門的 ↓			

● 日本語学

基礎日本語学 第2版

衣畑智秀編

A5判・362頁・4刷・978-4-8234-1195-3
定価1,800円＋税 発行2023.3

新たに「文字・表記」の章を加えリニューアル。日本語学を学びたい、または知りたいと思ったときに、一番初めに手にとるべき日本語学入門の決定版。



新ここからはじまる日本語学

伊坂淳一著

A5判・344頁・7刷・978-4-89476-710-2
定価1,800円＋税 発行2016.12

入門テキストとして好評を博した1997年初版を大幅改訂。近年の言語資料を追加し、内容を全面的に改めた。現代の生きた言葉遣いを出発点に、日本語の仕組みを考える。■ Kindle版も発売中。



ベーシック現代の日本語学*

日野資成著

A5判・242頁・7刷・978-4-89476-438-5
定価1,700円＋税 発行2009.4

大学の学部生を対象とした日本語学への入門教科書。分野は音声学・音韻論・意味論・語用論・日本語文法・社会言語学に渡り、学生の興味を引く新しい内容を導入した。



改訂版 日本語要説

仁田義雄ほか著

A5判・348頁・10刷・978-4-89476-468-2
定価1,900円＋税 発行2009.6

好評を博した1993年初版以降の研究動向を踏まえ、内容、装丁共に改訂。日本語のしくみや主要な事柄を、幅広いフィールドから知ることができる1冊。



ここからはじまる日本語文法

森山卓郎著

A5判・264頁・12刷・978-4-89476-174-2
定価1,800円＋税 発行2000.3

日常的なことばから考えていく日本語の文法のテキスト。必須な文法事項が一通り触れられている。豊富で、最新の文献リストは、卒論の課題を見つけるときにも便利。



日本語の文法*

高橋太郎ほか著

A5判・320頁・8刷・978-4-89476-244-2
定価2,400円＋税 発行2005.4

日本語の文法のテキスト。教材としてのみならず、参加している著者の文法理論が手短かにまとめられており、読み進めるうちに日本語文法の全体を学ぶことが出来る。



ガイドブック日本語文法史

高山善行・青木博史編

A5判・216頁・7刷・978-4-89476-489-7
定価1,900円＋税 発行2010.4

「モダリティ」「係り結び」など日本語文法史の基本テーマをわかりやすく解説。日本語学だけでなく言語学、日本語教育、国語教育、古典文学など、幅広いニーズに応える。



ガイドブック日本語史

大木一夫著

A5判・264頁・5刷・978-4-89476-615-0
定価2,200円＋税 発行2013.5

通史としてではなく言語の歴史を明らかにするさまざまな方法からみた日本語史の概説書。日本語を例にして、言語の歴史を明らかにする方法を多面的・総合的に概説する。■ Kindle版も発売中。



ガイドブック日本語史調査法

大木一夫編

A5判・328頁・8刷・978-4-89476-854-3
定価2,600円＋税 発行2019.5

古い文献のことばから日本語の歴史を解明するための調査法マニュアル。文献の内容の読み取り方や、証拠の集め方などを具体的に説明する。日本語史の演習や卒業論文に最適。



● 英語学

ファンダメンタル英語学 改訂版*

中島平三著

A5判・160頁・9刷・978-4-89476-575-7
定価1,400円＋税 発行2011.8

英語学入門テキストとして好評の1995年初版を大幅改訂。新たな分析法や説明法を追加。英語学の中核をなす統語論・形態論・音韻論・意味論の基礎を簡潔・丁寧に提示する。



ファンダメンタル英語学演習*

中島平三著

A5判・128頁・4刷・978-4-89476-519-1
定価1,600円＋税 発行2011.2

英語の構文交替などを題材に、英語やことばを研究する際の問題発見と解決の方法を学ぶ。多くの人が英語を学んだ時に抱いたであろう疑問に取り組む、英語学の基礎テキスト。



ファンダメンタル英語史 改訂版*

児馬修著

A5判・168頁・4刷・978-4-89476-877-2
定価1,600円＋税 発行2018.1

英語史入門書として好評の1996年初版を改訂。本文の加筆修正に加え、練習問題も改めた。歴史的言語変化のメカニズムを通して様々な言語学的事象への理解を深める1冊。



ファンダメンタル英文法*

瀬田幸人著

A5判・206頁・14刷・978-4-938669-86-7
定価1,600円＋税 発行1997.6

この例文はこういう意味だというような実例を収集したものではなく、様々な実例の背後にあると思われる規則性について考える。覚える英文法ではなく、考える英文法を目指す。



ファンダメンタル音声学*

今井邦彦著

A5判・240頁・5刷・978-4-89476-279-4
定価2,400円＋税 発行2007.5

ロンドン大学音声学科から英語発音技能第一級証明書、国際音声学協会から音声学技能第一級証明書を授与された著者が、音声学の理論に基づく「正しい」英語の発音を伝授。CD-ROM付。



ベーシック英語史

家人葉子著

A5判・138頁・8刷・978-4-89476-349-4
定価1,600円＋税 発行2007.3

英文法の不規則性は歴史によるものが多い。少し歴史を知っていれば、英語に対する恐怖感もずいぶん変わるのではないだろうか。英語を学ぶ人びと全てのための本。

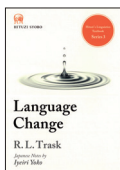


Language Change

R. L. Trask 著 家人葉子訳

菊判・144頁・978-4-89476-999-1
定価1,700円＋税 発行2019.12

英語の史的変化を、語彙・発音・綴り字・文法・意味などの側面からわかりやすく解説したテキスト。原著に日本の学習者向けの訳注と練習問題を追加したリプリント版。



ベーシック新しい英語学概論*

平賀正子著

A5判・228頁・7刷・978-4-89476-554-2
定価1,700円＋税 発行2016.1

異文化コミュニケーションという視点から、母語英語・国際英語の両面から、今や世界の共通語として認識される英語について概説する新しいタイプの英語学概論教科書。■ Kindle版も発売中。



ベーシック英語構文文法

大谷直輝著

A5判・248頁・978-4-89476-940-3
定価1,800円＋税 発行2019.10

近年注目を浴びる構文文法について、体系的に統括した日本では初めての概説書。構文文法の理論全体を体系的に捉えようとしている点に特徴があり幅広いテーマを扱う。



● 言語学

学びのエクササイズことばの科学

加藤重広著

A5判・148頁・9刷・978-4-89476-336-4
定価1,200円＋税 発行2007.3

ことばに関心のある人なら知っておきたいことや考え方、言語学というしかつめらしい学問に入門する前に気づいておくべき現実やその問題点を扱う。



学びのエクササイズレトリック

森雄一著

A5判・116頁・4刷・978-4-89476-600-6
定価1,400円＋税 発行2012.9

言葉の彩であり、説得の技術であり、物事の認識のためにも欠かせないものであるレトリック。理論から具体例まで、さまざまなレトリックを概説的に解説。



学びのエクササイズ認知言語学

谷口一美著

A5判・144頁・8刷・978-4-89476-282-4
定価1,200円＋税 発行2006.4

認知言語学についての重要で興味深いトピックを集め、その視点から、15章構成で認知言語学のエッセンスや考え方を学ぶ入門書。



問題を通して学ぶ生成文法*

阿部潤著

A5判・180頁・4刷・978-4-89476-390-6
定価1,600円＋税 発行2008.3

生成文法は人間の言語に内在する文法を解き明かすツールである。研究を進め、矛盾に出会い、新たな解決法を探す中で、生成文法の基本的概念や考え方を学ぶことができる一冊。■ Kindle版も発売中。



ファンダメンタル認知言語学

野村益寛著

A5判・208頁・4刷・978-4-89476-608-2
定価1,600円＋税 発行2014.5

言語とは、世界を〈意味〉として捉える認知の営みを可能にする記号の体系である。認知言語学の基本を、英語および日本語の語彙・文法の現象を通して紹介する入門テキスト。■ Kindle版も発売中。



概説レトリック

表現効果の言語科学

小松原哲太著

A5判・274頁・978-4-8234-1297-4

定価2,500円＋税 発行2025.3

言語技術の研究の原点は、修辞学(レトリック)にある。ギリシャ以来の研究を現在の視点でときほぐし、豊富な例をもとに言語科学の立場から全容を概説する。

■ Kindle版も発売中。



物語の言語学

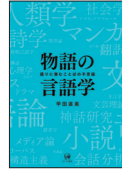
語りに潜むことばの不思議

甲田直美著

A5判・256頁・2刷・978-4-8234-1202-8

定価2,400円＋税 発行2024.2

「物語」、「語り」という観点から、言語学や物語論など隣接領域をわかりやすく解説。神話、マンガ、都市伝説など豊富な事例で人間や文化について考え方や知識の裾野を広げる。



An Introduction to Cognitive Grammar*

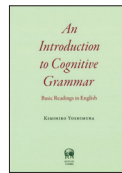
Basic Readings in English

吉村公宏著

菊判・100頁・978-4-8234-1145-8

定価1,600円＋税 発行2022.11

英語で書かれた認知言語学の入門書。日本人向けに平易な英語で書かれており、主要な用語には日本語訳を付す。英語を読み英語で考えながら認知言語学の基礎を学べる書。



ベーシック生成文法

岸本秀樹著

A5判・160頁・8刷・978-4-89476-426-2

定価1,600円＋税 発行2009.3

英語だけでなく日本語の言語現象を通して、生成文法の考え方を学ぶことができ、人文系以外の学生にも、文法について考えるきっかけを与えることを意図する、学部生向けの教科書。本書を基にした英語版 *Analyzing Japanese Syntax: A Generative Perspective* も刊行。■ Kindle版も発売中。



ベーシック形態論*

小野尚之著

A5判・192頁・978-4-8234-1261-5

定価2,000円＋税 発行2024.10

「ぼっちキャンプ」の「ぼっち」って何なのか。学習者に身近な言語現象から、単語の成り立ちや新しい単語ができるしくみを理解し、形態論の考え方が身につくテキスト。



ベーシックコーパス言語学 第2版

石川慎一郎著

A5判・288頁・2刷・978-4-8234-1093-2

定価1,700円＋税 発行2021.3

英語と日本語コーパスの両者に目配りしつつ、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法について、コーパス言語学を初學者にも分かりやすく平易に解き明かす。



ベーシック応用言語学 第2版

L2の習得・処理・学習・教授・評価

石川慎一郎著

A5判・376頁・978-4-8234-1197-7

定価2,100円＋税 発行2023.3

個別的に論じられることの多かった、第2言語(L2)の習得・処理・学習・教授・評価の問題を統合的に位置づけ、平易な解説で幅広い知識の必要な応用言語学の全体像を示す。



音声を「目」で見る音声学入門

日英語の音素から韻律まで

水口志乃扶・林良子・立石浩一著

A5判・208頁・978-4-8234-1342-1

発行2026.10

日本語と英語を主な素材とし、音の作り方から韻律の付け方までを初歩から学ぶための音声学の教科書。Praatを用いて音声録音、図示して、可視化し分析できる力をつける。



対照理論言語学を始めよう

言語機能の仕組みから探る日本語スペイン語対照研究

片岡喜代子著

A5判・184頁・978-4-8234-1345-2

定価2,800円＋税 発行2026.4

言語機能の仕組みという同じ器で日本語とスペイン語を対照させると、意外な共通点が見え、同時に相違点もより明白に。スペイン語学習での疑問やつまづきを解決するヒントにも。



新しい言語心理学

茂呂雄二・伊藤崇・新原将義編

A5判・256頁・978-4-8234-1251-6

定価2,400円＋税 発行2024.10

ことばの実践という見方に立ち、豊富な事例から、心とことば、社会とことば、ことばの発達、ことばの障害に関する従来の知識をおさえつつ新しい考え方を学ぶテキスト。



改訂版 グローバル社会の コミュニケーション学入門

藤巻光浩・宮崎新編

A5判・304頁・978-4-8234-1260-8

定価 2,200 円＋税 発行 2024. 9

これまであまり扱われてこなかった、SNS による対人関係や医療コミュニケーションなど具体的な場面を通して、コミュニケーション学を網羅的に学ぶことができる一冊。



失敗から学ぶ大学生の レポート作成法 第2版*

近藤裕子・由井恭子・春日美穂著

B5判・136頁・3刷・978-4-8234-1247-9

定価 1,600 円＋税 発行 2024. 3

大学初年次を対象としたレポート作成法の定番テキストがリニューアル。学生が失敗しがちな例をあげながら、レポートの書き方を学ぶ。レポートのサンプルや練習問題も掲載。■ Kindle 版も発売中。



改訂版 社会言語学

基本からディスコース分析まで

岩田祐子・重光由加・村田泰美著

A5判・368頁・4刷・978-4-8234-1143-4

定価 2,200 円＋税 発行 2022. 3

社会言語学の成り立ちから最新の研究知見までカバーした『概説 社会言語学』の改訂版。社会言語学の基本的なテーマを扱う一方で、相互行為的社会言語学、談話分析、会話分析、言語人類学、批判的談話分析などのテーマの解説も充実。■ Kindle 版も発売中。



型から学ぶ日本語練習帳*

10代のはじめてのレポート・プレゼン・実用文書のために

要弥由美著

B5判・208頁・978-4-8234-1237-0

定価 2,400 円＋税 発行 2024. 5

全ては型を敵うことから！ テキストタイプ別の定型文・形式を軸に、表現や文法を学ぶ。学生生活から就職活動、社会生活で役立つ、文書の基本を身につける。



日本語を書くトレーニング*

野田尚史・森口裕著

A5判・128頁・2版5刷・

978-4-89476-177-3

定価 1,000 円＋税 発行 2014.12

変化した学生生活や時代に合わせてアップデートした定番テキストの改訂版。メールで先生に問い合わせをする、レストランのメニューをわかりやすく作り直すなど、日常生活に密着した言語活動をサポートするテキスト。■ Kindle 版も発売中。



言語人類学への招待

ディスコースから文化を読む

井出里咲子・砂川千穂・山口征孝著

A5判・264頁・2刷・978-4-89476-965-6

定価 2,400 円＋税 発行 2019. 7

アメリカ合衆国を発祥の地とし発展してきた言語人類学の概説書。ことばの使用実践から多様な言語観・世界観を明らかにし、変わりゆく文化社会を捉えるための視座を提供する。■ Kindle 版も発売中。



● スタディスキル

人文系学生のための はじめての量的研究・ 質的研究

西田理恵子・岡田悠佑・秦かおり編

A5判・292頁・978-4-8234-1351-3

定価 3,000 円＋税 発行 2026. 5

はじめて研究に携わる学部生・大学院生のための研究方法論のテキスト。量的研究・質的研究の理論の基礎のほか、実践パートも掲載。Web サイトでのデータ配布・解説付き。



目指せ！ 書ける大学生

今さら聞けないレポート・論文、メールの書き方

朴秀娟・澤村美幸・新井由美著

A5判・316頁・978-4-89476-941-0

定価 2,700 円＋税 発行 2026. 6

レポート・論文などの学術的文章から電子メールの書き方まで、親しみやすいマンガで分かりやすく紹介しながら解説。大学生生活に必要な「書く力」の基礎を身につけられる一冊。



プロセスで学ぶ大学生の レポート・論文作成

今村圭介・原田幸子編

A5判・170頁・978-4-8234-1290-5

定価 1,800 円＋税 発行 2025. 3

大学初年次生を主な対象とした、作成プロセスを重視したレポート・論文作成のテキスト。生成系 AI など様々なツールを利用し、典型的な作成プロセスを体験しながら学ぶ。



大学で学ぶアカデミック・ライティングの教科書

〈書く力〉を引き出す問い 109

甲田直美著

A5判・208頁・2刷・978-4-8234-1302-5
定価2,400円＋税 発行2025.7

109の問いを通して、アイデア発想から推敲まで、大学に必要な論理力・分析力・思考力を養いながら、一生ものの書く技術を学べる一冊。



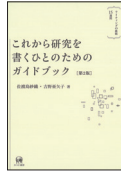
これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版

ライティングの挑戦 15 週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

A5判・274頁・5刷・978-4-8234-1089-5
定価2,000円＋税 発行2021.2

「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能や文献研究、テーマの設定から論文の評価まで段階取りをマスターできる。■Kindle版も発売中。



Writing for Academic Purposes

英文作を卒業して英語論文を書く

田地野彰ほか編

A5判・216頁・4刷・978-4-89476-490-3
定価2,000円＋税 発行2010.4

大学・大学院生対象の英語論文の書き方ガイド。論文の構造や概念の解説、資料収集法、読書法など幅広い視点から、論文を作成するために必要なスタディスキルの向上を図る。



英語科学論文をどう書くか

新しいスタンダード

保田幸子著

B5判・232頁・978-4-8234-1080-2
定価2,400円＋税 発行2021.11

英語科学論文執筆のためのガイドブック。科学論文に関する様々な伝統的説を反証し、新しい科学論文執筆法を解説する。読み手を引き付ける論文のコツを網羅的に学べる一冊。



ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション*

プレゼンテーションとライティング

大島弥生ほか著

B5判・168頁・5刷・978-4-89476-471-2
定価1,500円＋税 発行2012.2

大学入学後の初年次教育や入試・編入の小論文指導などに適した活動型教科書。本を批判的に分析するグループワーク等、各課のタスクをピア活動を通じて行う。練習問題も豊富。■Kindle版も発売中。



ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版*

プロセス重視のレポート作成

大島弥生ほか著

B5判・150頁・8刷・978-4-89476-709-6
定価1,600円＋税 発行2014.7

相手に伝わるレポートの書き方・発表のし方を身につけるための実践的表現活動をタスク化したテキスト。大学一年生が日本語表現やスタディスキルの基礎を学ぶのに最適。第2版の主な変更点は本書ホームページ参照。https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-709-6.htm
■Kindle版も発売中。



グループワークで日本語表現力アップ*

野田春美ほか著

A5判・176頁・6刷・978-4-89476-802-4
定価1,400円＋税 発行2016.3

グループワークを活用した大学初年次向けの文章表現のテキスト。文章表現の基本的な知識や姿勢からレポート執筆まで、豊富な課題で楽しく学び、効果的に習得できる。



はじめよう、ロジカル・ライティング*

名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科著 執筆協力・戸田山和久

B5判・224頁・6刷・978-4-89476-700-3
定価1,600円＋税 発行2014.5

『論文の教室』の戸田山和久名古屋大学教授と意見交換しながら作った、中学生から社会人までを対象とする日本語表現の教科書。「論理的」とはどういうことかに始まり、他者の意見やデータを分析し、自己の主張や提案につなげるまでを身につける。■Kindle版も発売中。



● 文学

学びのエクササイズ文学理論*

西田谷洋著

A5判・168頁・4刷・978-4-89476-703-4
定価1,400円＋税 発行2014.4

文学を読む、論じるための主要な理論を15の章に分けて解説。国内外の研究成果をコンパクトにまとめ、興味のある章から文学理論とはどのようなものかを知ることができる一冊。



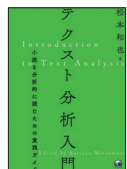
テキスト分析入門*

小説を分析的に読むための実践ガイド

松本和也編

A5判・264頁・6刷・978-4-89476-836-9
定価2,000円＋税 発行2016.10

小説はストーリーや主題を読むだけではなく、小説を構成することばが、どのように小説の面白さを作り出しているのか、その仕掛けや技術を分析する方法を具体的に解説。



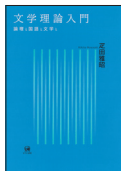
文学理論入門

論理と国語と文学と

疋田雅昭著

A5判・272頁・3刷・978-4-8234-1104-5
定価2,200円＋税 発行2021.11

高校の現代文が文学的文章と論理的文章に「分離」されることとなった。これらを有機的に組み合わせてゆくため、新たな国語教育の可能性を模索する文学理論入門。



文学研究の扉をひらく

基礎と発展

石川巧ほか編

A5判・360頁・2刷・978-4-8234-1136-6
定価2,200円＋税 発行2023.2

日本近現代文学研究の方法と技術を習得するためのテキスト。各章で扱う文学作品もテキスト内に掲載し、研究アプローチや批評理論について、各分野の第一人者が解説する。



卒業論文マニュアル 日本近現代文学編

斎藤理生ほか編

四六判・242頁・978-4-8234-1146-5
定価1,700円＋税 発行2022.10

日本近現代文学で卒論を書こうとしたら何から手をつけたらよいだろうか。必要な準備、分析の手立て、執筆の進め方は？ テーマ決めから提出前の推敲まで読者をサポートする。



日本近現代文学史への招待

山崎義光ほか編

A5判・354頁・2刷・978-4-8234-1240-0
定価2,400円＋税 発行2024.10

19世紀後半から21世紀の現在まで近現代文学を8つの時代に区分しテーマを立てて紹介。文学テキストが産まれてきた歴史や社会的文脈を重視した新しい文学史入門。



● 国語科教育

ここからはじまる国語教室

達富洋二編著

A5判・316頁・2刷・978-4-8234-1196-0
定価2,400円＋税 発行2023.4

生徒自身が主体的に生きていくための言語活動を教室で学ぶことを目的にした新しい国語科教育の教科書。現場の教師の間にこたえ、新しい言語教育を提言。学習指導要領準拠。



● 日本語教育

ベーシック日本語教育

佐々木泰子編

A5判・336頁・12刷・978-4-89476-285-5
定価1,900円＋税 発行2007.4

コミュニケーション重視となった新しい日本語教育能力検定試験に対応した日本語教授法のテキスト。言語の仕組みなど、従来から重要視されている必須の事柄についても丁寧に扱っている。



使える日本語文法ガイドブック＊

やさしい日本語で教室と文法をつなぐ

中西久実子ほか著

A5判・176頁・2刷・978-4-89476-997-7
定価1,600円＋税 発行2020.1

「使える日本語」を教えるために必要な情報を平易な日本語で書いたガイドブック。初心者の日本語教員でも、授業の前に読んで使えるよう配慮した文法の苦手な人向けの入門書。■ Kindle版も発売中。



動画でわかる日本語教育実習ガイドブック

実習生から新任日本語教員まで使える実践研修のてびき

中西久実子編 中西久実子・井元麻美著

A5判・116頁・978-4-8234-1262-2
定価2,200円＋税 発行2024.12

登録日本語教員の資格認定に必要な「実習」の6つのプロセスを、動画と別冊ワークシートで効率よく学んでいく。実習生とその指導者が共有しながら使える便利な1冊。



● 語学教材

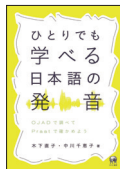
ひとりでも学べる日本語の発音

OJADで調べてPraatで確かめよう

木下直子・中川千恵子著

B5判・104頁・978-4-89476-851-2
定価1,600円＋税 発行2019.2

日本語初級後半以降の学習者向けの、発音の自律学習教材。持続可能な発音学習のための様々な方法を紹介。喜怒哀楽などの感情の表現法も盛り込み、楽しみながら学習ができる。■ Kindle版も発売中。



「大学生」になるための日本語1・2

堤良一・長谷川哲子著

1: B5判・192頁・5刷・

978-4-89476-435-4

定価1,900円＋税 発行2009.10

2: B5判・252頁・3刷・

978-4-89476-462-0

定価1,900円＋税 発行2010.11

日本の大学進学希望の日本語学習者対象にしたテキスト。生教材をもいた読解文、より自然な会話を目指した聴解CD、豊富なタスクの練習により四技能を総合的に養える1冊。■Kindle版も発売中。



中級からの人とつながる日本語会話*

ワンランク上のコミュニケーション力を目指す

小池真理・小林ヒルマン恭子・宮崎聡子著

B5判・208頁・2刷・978-4-8234-1147-2

定価2,400円＋税 発行2024.5

自然で円滑な会話を展開できる力を養成する会話教材。話し手としてだけではなく、聞き手として相手の意図を汲み取り共感を示す方法を学ぶ。学生にも社会人学習者にも役立つ。音源はネットで提供。



そのまんまの日本語

自然な会話で学ぶ

遠藤織枝編 阿部ひで子ほか著

B5判・140頁・978-4-89476-921-2

定価2,000円＋税 発行2020.3

実際の談話をもとに、わざとらしくない本物の会話で作った中級学習者向けの日本語会話教科書。日本人のコミュニケーションの実際と、今の日本語の本当の姿をつかみとる。音声CD付。■Kindle版も発売中。



日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書

出会い【本冊 テーマ学習・タスク活動編】*

【別冊 文型・表現練習編】

東京外国語大学留学生日本語教育センター著

本冊: B5判・224頁・5刷・

978-4-89476-758-4

定価3,000円＋税 発行2015.5

別冊: B5判・144頁・6刷・

978-4-89476-801-7

定価1,800円＋税 発行2016.3

テーマとタスクを融合させた新しい中級日本語総合教科書。本冊は留学生として一度は考えて欲しい、日本社会・文化に関する6つのテーマと、テーマ理解を深めるための4つのタスクから成る。別冊は、本冊でのテーマ学習とタスク活動に必要な文型や話し言葉の表現・ストラテジーを取り上げ、本冊だけでは明示的に学べない言語知識が補充できるようにしている。

■Kindle版も発売中。



日本語 巡り合い 1・2・3

佐々木瑞枝監修 『巡り合い』編集委員会執筆

1 (初級1): B5判・188頁・978-4-8234-1216-5

定価3,000円＋税 発行2024.3

2 (初級2): B5判・212頁・978-4-8234-1217-2

定価3,200円＋税 発行2025.4

3 (中級): B5判・304頁・978-4-8234-1218-9

定価3,800円＋税 発行2026.1

マンガで予習し、授業でアクティブ・ラーニングを取り入れながら学ぶ、「反転授業」に適した日本語教科書。1巻はJLPT N5～N4、CEFR A1～A2、2巻はJLPT N4、CEFR A2対応。3巻はJLPT N3～N2、CEFR A2～B1対応。



脱文法 100トピック 実践英語トレーニング

中山誠一ほか著

四六判・320頁・6刷・978-4-89476-858-1

定価1,600円＋税 発行2017.5

文法の知識に頼らない「瞬間トランスレーション法」という独自の手法をとりいれ、「食」「旅行」「テクノロジー」など100種類の話題を収録した、英語実践練習のテキスト。



音声認識で学べる英語発音学習帳

中條純子著

B5判・168頁・978-4-8234-1228-8

定価2,000円＋税 発行2024.3

英語の発音の自律学習教材。スマホやPCの音声認識を使用しつつも気軽に練習ができる。機械的になりがちな発音練習を楽しく続けられるよう、リズムベースの活動で構成。音源・動画はネットで提供。



新 ネット時代の中国語*

張婧祎・玉岡賀津雄・王莉莎著

B5判・184頁・978-4-8234-1246-2

定価2,400円＋税 発行2024.3

生活がオンライン化・デジタル化され、スマホ決済の普及など現在の言語生活に対応し、現代中国の情報化社会で生活するために必要な表現をふんだんに取り入れた中国語教科書。音源はネットで提供。



書名の最後に★印のあるものには、授業のためのヒントや解答をご用意しております。ここに掲載したもの以外のテキストについては、下記のURLをご覧ください。ご採用をご検討くださいます場合には、採用見本をお送りします。別紙の採用見本請求書をご利用下さい。

<https://www.hituzi.co.jp/saiyou/index.html>

教科書の電子化を進めています。電子教科書一覧は二次元コードからご覧ください。

<https://www.hituzi.co.jp/ebook/>



雑誌「日本文学」発売中

日本文学研究および国語教育の今日的な課題を追求する日本文学協会発行の機関誌。日本文学と国語教育にかかわる研究論文・実践報告・エッセイ等を掲載しています。月刊。

特集：2026年5月号 中世文学における名所／7月号 いま遊里文芸を考える／8月号 学籍のある会員による論文／9月号 日記からひらく近現代文学研究

※弊社では直接販売しておりませんので、ご注文は、お近くの書店または日本文学協会 (<http://nihonbungaku.server-shared.com/>)までお願いいたします。



製作協力した電子学術雑誌

ひつじ書房は、編集を行っていませんが、今後、学術情報の発信に際し、電子的な発信が求められることがあると考えて製作を協力しました。動画や音声、詳細な画像などを扱った学術成果の発表の場を作りたいと考えています。



日本語音声コミュニケーション 14 (14号からオープンアクセス)
(日本語音声コミュニケーション学会)

日本語音声コミュニケーション 14
https://www.hituzi.co.jp/epublish/academic_journal/nhng_onsei/index14.html

日本語習熟論研究 3 (日本語習熟論学会)

ひつじ書房ウェブマガジン 未草 (ひつじくさ) のご案内

ウェブマガジン「未草」は、言語学や文学、その他ことばに関わる幅広いテーマについて研究者による連載のほか、ひつじ書房の刊行物やイベントの紹介をします。今後も様々な連載を掲載してまいりますので、楽しみにお待ちください。
右の2次元コードからご覧いただけます。ぜひ、ご覧ください。



<https://www.hituzi.co.jp/hituzigusa/>

『認知言語学論考』No.20 原稿募集 (原稿締め切り：2027年2月1日)

『認知言語学論考』は2001年に第1巻を刊行し、以降継続的に国内外の第一線の研究者による、認知言語学分野のオリジナルな研究成果を発表する場を提供しています。
このたび『認知言語学論考』No.20の原稿を募集いたします。要領をご覧の上、認知言語学およびその関連分野にかかわる、未公開の論文の投稿をお願いします。ふるってご投稿ください。

◎編集体制

堀江薫 (愛知大学、名古屋大学名誉教授) (世話人)
渋谷良方 (金沢大学)
小松原哲太 (神戸大学)
大谷直輝 (東京外国語大学)
堀内ふみ野 (日本女子大学)

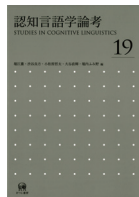
◎論文の査読・コメントについて

投稿論文は、内容・形式面でコメントをさせていただき、採否を判断させていただきます。

◎論文の締め切り

2027年2月1日 (月)

詳細は、webページ「ひつじ書房『認知言語学論考』No.20 原稿募集・投稿要領」をご確認ください。



『認知言語学論考』No.20 原稿募集・投稿要領
<https://www.hituzi.co.jp/books/scf/scf20-cfp.html>